

令和7年度

大玉村の教育



大玉村教育委員会

大玉村民憲章

わたくしたちの村は、安達太良山の美しい自然と広大な耕地にめぐまれた活力のある村です。

わたくしたち村民は、この恵まれた特性を活かし、限りなく躍進する田園都市をめざして、村民憲章を定めます。

昭和五十九年四月一日制定

一、美しい自然と調和した活力のある村をつくりましょう。

一、明るく快適な住みよい村をつくりましょう。

一、教養、文化の向上につとめ知性豊かな村をつくりましょう。

一、健康と福祉を重んじ助け合う村をつくりましょう。

一、温かい心のかようふれあいの村をつくりましょう。

表紙写真

公民館事業 『生き粋大学』 生徒と一緒に音楽を楽しむ	地域学校協働活動事業 中3生共に学ぶおたま未来塾
玉井小学校 玉っ子学習発表会 本揃の田植踊	公民館事業 『わんぱく広場』 歴史体験
幼・小・中一貫的教育推進事業 幼・少交流	公民館事業 『おおたま合奏部』

目次

1 本村の状況	P1	15 社会教育・社会体育施設等概要	P53
(1) 位置	P1	(1) 社会教育施設等	P53
(2) 地勢	P1	(2) 社会体育施設	P54
(3) 沿革	P1	16 社会教育関係委員会	P58
(4) 人口	P2	(1) 社会教育委員の会	P58
(5) 産業別就業者数	P3	(2) 文化財保護審議委員会	P58
2 教育長・教育委員	P4	(3) 文化財調査委員会	P58
3 教育委員会事務局組織	P5	(4) スポーツ推進委員会	P58
4 教育委員会関係沿革	P6	17 各種団体関係機関	P59
5 むらづくりの基本	P8	(1) 各種関係機関	P59
6 教育大綱・教育ビジョン	P9	(2) 文化団体	P60
7 教育財政	P26	(3) スポーツ協会役員	P60
8 「地域と共に歩む学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を実現するための連携・協働	P28	(4) スポーツ協会加盟団体	P61
9 幼稚園教育指導の重点	P29	(5) 学校運営協議会委員 コミュニテースクール委員	P61
10 学校教育指導の重点	P30	18 資料	P62
11 各学校概要等	P31	歴代村長・歴代議長	P62
(大山幼稚園)	P31	歴代教育長・歴代教育委員	P63
(玉井幼稚園)	P33	歴代小・中学校校長	P64
(大山小学校)	P35	指定文化財	P66
(玉井小学校)	P38	園児・児童・生徒在籍状況	P67
(大玉中学校)	P41	園歌・校歌	P68
12 社会教育事業計画	P44		
13 文化振興事業計画	P47		
14 社会体育事業計画	P50		



大玉村観光キャラクター

「たまちゃん」

1. 本村の状況

(1) 位 置

本村は、県の中通り地方中部で J R 東北本線本宮駅より西へ約 4 km のところに位置している。

阿武隈川・安達太良山を東西にひかえ、面積は、79.44 k m²である。

福島市から約 36km、郡山市から約 18km、東京から約 240km、広域市町村圏の一次生活圏である二本松市から約 13km に位置している。

国道 4 号をはじめ、主要地方道の本宮・土湯温泉線ほか、県道 5 路線が放射状に走り、本村の生活圏の重要なルートとなっている。



(2) 地 勢

西に磐梯朝日国立公園である安達太良山、東は阿武隈川に接し、諸丘陵が起伏し、四方が高地に囲まれ、その中に安達太良川をはじめ 3 河川が東流している。

耕地は西から東にかけ緩傾斜が開かれており、平坦部は大部分が沖積層で、総面積の 37.9%、西部の山間部は、火山岩層が 33.5%を占めている。

気候は、年平均約 12℃の気温、1,100 mmの年間降水量で、積雪量は、20～30 cmとなっている。

(3) 沿 革

昭和 30 年大山村と玉井村を合併して、大玉村とし、本庁を玉井、支所を大山に定めて行政運営してきたが、昭和 37 年 4 月 16 日、大玉村役場の位置を変更する条例制定により、大玉村玉井字星内 70 番地に庁舎の建築が完成し、昭和 38 年 2 月 10 日、新庁舎に移転し現在に至る。

なお、大山支所は、昭和 53 年に廃止された。

土 地 利 用

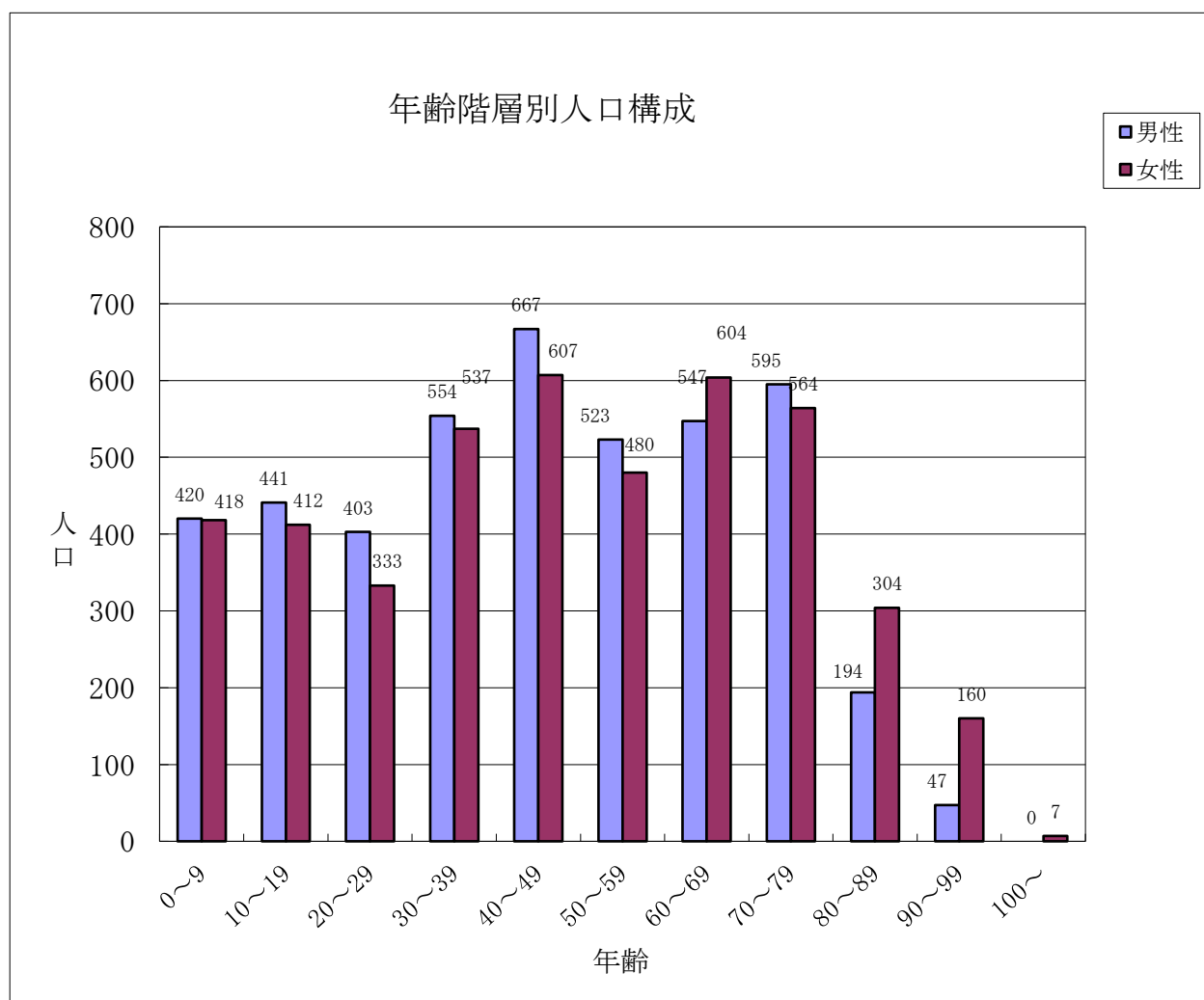
地 目	面積(m ²)	%
田	12,988,881	16.3%
畑	4,180,525	5.3%
宅 地	2,716,833	3.4%
鉱泉地	40	0.0%
池 沼	86,224	0.1%
山 林	20,065,239	25.3%
原 野	1,527,818	1.9%
雑種地	2,231,762	2.8%
その他	35,642,678	44.9%
合計	79,440,000	100%

(令和 5 年 1 月 1 日現在)

(4) 人 口

年次	世 帯 数	人 口			備 考
		総 数	男 性	女 性	
H7	1, 803	8, 339	4, 079	4, 260	※1
H12	1, 965	8, 407	4, 137	4, 270	※1
H17	2, 090	8, 464	4, 184	4, 280	※1
H22	2, 253	8, 574	4, 214	4, 360	※1
H27	2, 614	8, 684	4, 310	4, 374	※1
R 2	2, 874	8, 900	4, 427	4, 473	※1
R 7	3, 203	8, 790	4, 368	4, 422	※2

※1：国勢調査より ※2：3月末の現住人口より



男性 4,391名 女性 4,426名 計8,817名(令和6年12月31日現在住民基本台帳より)

(5) 産業別就業者数

総	数	4,650人	
農	業	512人	第1次産業 528人 11.4%
林	業	15人	
漁	業	1人	
鉱	業	-	第2次産業 1,535人 33.0%
建設	業	474人	
製造	業	1,061人	
電気・ガス・熱供給・水道業		13人	第3次産業 2,545人 54.7%
情報通信業		21人	
運輸業，郵便業		338人	
卸売業・小売業		630人	
金融業・保険業		44人	
不動産業，物品賃貸業		27人	
学術研究，専門，技術サービス業		90人	
宿泊業，飲食サービス業		190人	
生活関連サービス業，娯楽業		113人	
教育，学習支援業		132人	
医療，福祉		484人	
複合サービス事業		63人	
サービス業 (他に分類されないもの)		214人	
公務 (他に分類されないもの)		186人	
分類不能の産業		42人	0.9%

資料：令和2年国勢調査

2. 教育長・教育委員



教 育 長
渡 辺 敏 弘



教育長職務代理者
齋 藤 雄 一 郎



委 員
須 藤 綾 子



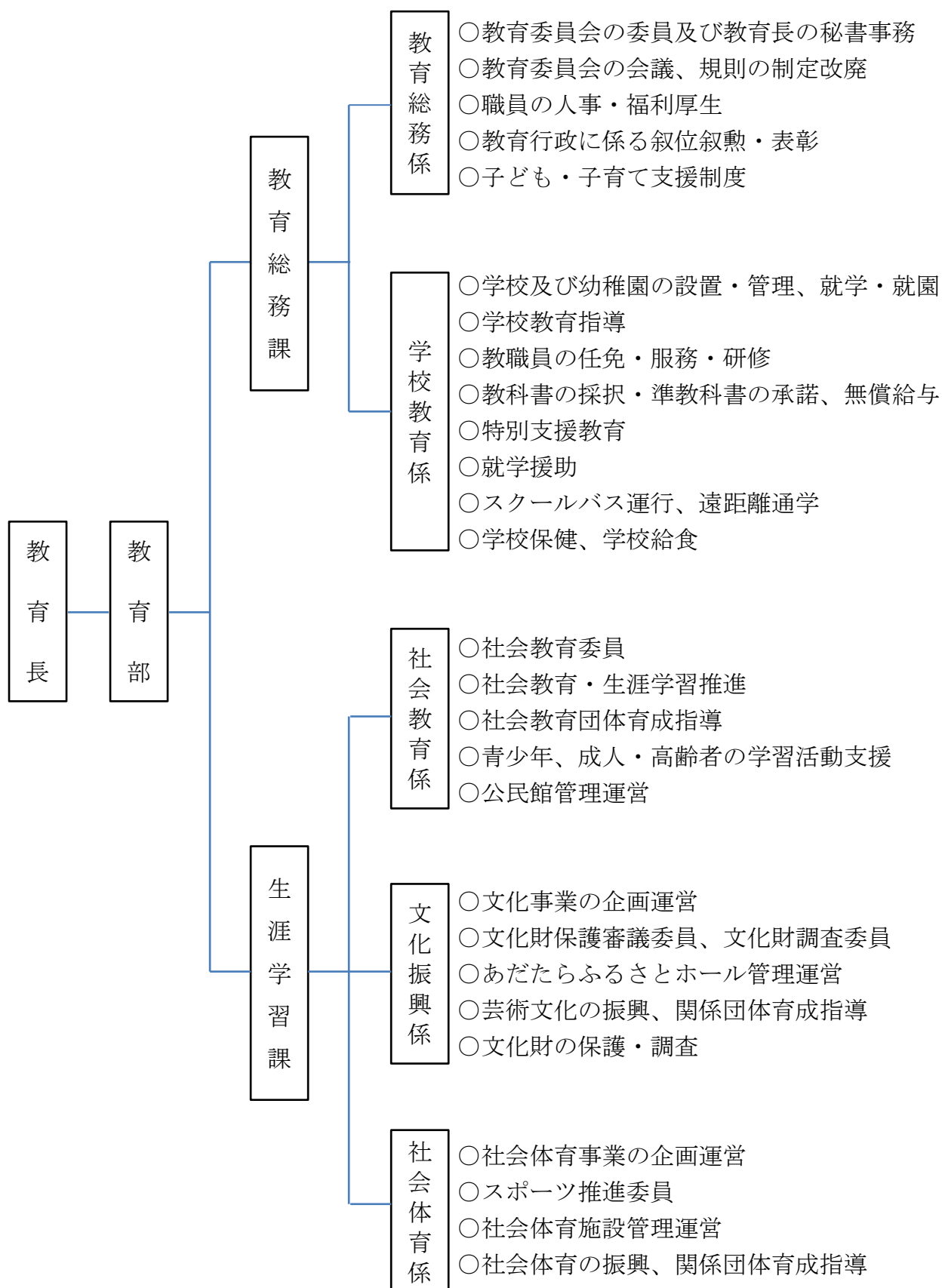
委 員
三 村 浩 史



委 員
柳 沼 順 子

職 名	氏 名	就任年月日	任 期
教 育 長	渡 辺 敏 弘	令 4. 4. 1	自 令 7. 4. 1 至 令 10. 3. 31
教育長職務代理者	齋 藤 雄 一 郎	平 23. 1. 1	自 令 6. 1. 1 至 令 9. 12. 31
委 員	須 藤 綾 子	平 25. 10. 1	自 令 3. 10. 1 至 令 7. 9. 30
委 員	三 村 浩 史	令 4. 12. 21	自 令 4. 12. 21 至 令 8. 12. 20
委 員	柳 沼 順 子	令 6. 10. 20	自 令 6. 10. 20 至 令 10. 10. 19

3. 教育委員会事務局組織



4. 教育委員会関係沿革

年 月	沿 革
昭 和 30 年 3 月	玉井村と大山村の合併により『大玉村』となる 『玉井公民館』、『大山公民館』と改称
昭 和 34 年 4 月	玉井公民館独立設立（玉井字西庵） 大山公民館独立設立（大山字谷地）
昭 和 41 年 2 月	玉井公民館、大山公民館解消
昭 和 42 年 1 月	『大玉村公民館』設立（玉井字星内）
昭 和 55 年 3 月	大玉村公民館解消
昭 和 55 年 4 月	『大玉公民館』設定（玉井字星内） 『大山公民館』設定（大山字大江田中）
昭 和 57 年 6 月	『大玉村農村環境改善センター』設置
昭 和 60 年 4 月	『村民体育館』新築 大山運動場を『村民運動場』に名称変更 玉井体育館を『改善センター体育館』に名称変更 玉井運動場を『改善センター運動場』に名称変更
昭 和 63 年 4 月	『村民テニスコート』（3面夜間照明付）オープン
平 成 1 年 4 月	『村民プール（温水）』オープン 『あだたらふるさとホール』オープン
平 成 4 年 3 月	改善センター体育館を土間床に改修
平 成 6 年 10 月	ふくしま国体リハーサル大会県総体 オリエンテーリング大会第4回村民運動会
平 成 7 年 10 月	第50回国民体育大会デモスポ行事 オリエンテーリング（開催地：大玉村）
平 成 8 年 3 月	改善センター渡り廊下完成
平 成 10 年 4 月	夢づくり生涯学習意識調査実施
平 成 12 年 3 月	おおたま夢づくり計画（生涯学習総合振興計画）策定
平 成 12 年 4 月	教育委員会が教育総務課・生涯学習課の2課制となる
平 成 20 年 3 月	改善センター新ホール完成
平 成 20 年 4 月	指導主事配置
平 成 20 年 4 月	総合型地域スポーツクラブ 『おおたまスポーツクラブ』設立
平 成 21 年 5 月	学校支援地域本部設置
平 成 21 年 9 月	放課後子ども教室開校
平 成 22 年 3 月	改善センター全館エアコン設置
平 成 23 年 3 月	大玉村総合教育基本計画（大玉村教育ビジョン）策定
平 成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平 成 23 年 4 月	「おおたま学園コミュニティ・スクール」導入
平 成 24 年 11 月	大玉村子ども読書活動推進計画策定
平 成 24 年 12 月	大玉村民プール災害復旧工事完了
平 成 25 年 5 月	改善センター太陽光発電設備等設置
平 成 25 年 9 月	大玉村民テニスコート改修工事（人工芝、照明設備）完了
平 成 26 年 4 月	教育委員会事務局が部制を施行し、1部2課制となる

年 月	沿 革
平成28年3月	福島大学人間発達文化学類との連携・協働に関する協定締結
平成28年4月	改善センター体育館を解体し、『大玉村民屋内運動場』オープン
平成29年3月	大玉村歴史文化基本構想策定
平成29年4月	地域学校協働本部設置
平成29年9月	おおたま・オータム・フェスタ
平成30年4月	幼稚園3年保育開始
令和2年7月	小中学校統合型校務支援システム導入
令和3年3月	「おおたま学」刊行
令和3年3月	小中学校校内ネットワーク整備(GIGAスクール)
令和3年3月	改善センター1階「バリアフリーストイレ」設置
令和3年5月	小中学校学習用タブレット端末整備(GIGAスクール)
令和3年9月	社会教育・社会体育施設トイレ手洗い自動水栓化工事完了
令和3年10月	幼稚園・小学校トイレ手洗い自動水栓化工事完了
令和4年2月	大玉村総合教育基本計画（大玉村教育ビジョン）〔第2期〕策定
令和5年2月	大玉村民体育館地震被害修繕工事完了
令和6年3月	改善センター北側駐車場舗装工事完了併せてセンター内土足解禁
令和6年9月	おおたまふれあいフェスタ

むらづくりの基本理念

震災を教訓に未来を志向する村をめざす
人が定住する活力のある村をめざす
自然とともに生きる村をめざす
個性を尊重し支えあう村をめざす

村の将来像

小さくても輝く 大いなる田舎 美しい村・大玉村

政策目標

力強い産業の復興・創生

～大玉村に根づき、世界とつながる産業の育成～

みんなで支える安心生活

～自助・共助・公助でみんながつながるむらづくり～

自然を生かした快適な暮らし

～バランスのよい生活、バランスのよい生活環境の実現～

夢を育てる教育・子育て

～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～

大玉村教育大綱・大玉村教育ビジョンは、令和3年度策定の「第五次大玉村総合振興計画」との整合性を図り、『夢を育てる教育』 おおたまに学び、世界とつながる人間の育成 ～ みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育 ～ を基本目標として掲げ、以下の事業を展開するものです。

6. 教育大綱・教育ビジョン

□ 基本目標 □

「夢を育てる教育」おおたまに学び、世界とつながる人間の育成

～ みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育 ～

小さいというスケールメリットを生かし、村民一人ひとりがつながり、共に支え合い、学び合って、夢や生きがいのもてる豊かな人生を送ることができるよう、学校・家庭・地域が協働していくこと（「**みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ**」）が大切です。教育を担うのは学校だけではありません。家庭での教育、地域社会での教育がそろってこそ、次に掲げる目指す人間像が具現化されるものと考えています。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を核として子どもたちに豊かな学びの場と機会を提供し、大きな夢と世界につながる豊かな人間性や社会性及び思考力・判断力・表現力を育てましょう。

さらに、学校を核とした地域づくり（「スクール・コミュニティ」）を推進し、子どもも大人も学び合い、育ち合う、「共に学び合う」関係をつくっていきましょう。

□ 目指す人間像 □

◇ 共に支え合い、自尊心をもった人

（自分を愛し、他人を愛せる人）

◇ 多様な個性を生かし、未来を切り拓く力をもった人

（社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を発揮し、社会や地域を創造することができる人）

◇ あきらめない強い心と健康な体をもった人

（夢や生きがいをもち、健康で生き生きと暮らす人）

◇ 共生の心をもった人

（様々な人と適切なコミュニケーションをとることができ、思いやりをもって接することができる人、自然を愛し大切にできる人、男女共生社会の実現を目指す人）

◇ 社会性・市民性をもった人

（社会的な規範を重んじ、社会を良くするために積極的に行動することができる人）

□ 施策目標 □

○ 幼・小・中が一貫した教育の推進 **【響 育】**

○ 地域ぐるみの学びのむらづくり **【共 育】**

○ 子どもの健やかな体づくりと

地域ぐるみのスポーツのむらづくり **【強 育】**

○ ふるさと文化の振興 **【郷 育】**

○ 4つの『育』を支える **【基 盤】** づくり

□ 施策目標・主要施策 □

幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】

- 「おおたま学園」による、幼・小・中の一貫的教育をさらに充実させ、子どもの学び、育ちを一貫して支援していくことにより、進んで多くの人とつながり、互いに学び合うことを通して、社会生活に必要な知識や技能はもちろん、未知の状況にも主体的に対応できる諸能力を育成し、豊かな人間性や社会性を身に付けた人を育てます。
- 地域の特色を生かした多様な学びの創造と、子ども一人ひとりの個性を伸ばすきめ細かな教育を推進するとともに、安心して学べる教育環境づくりに努めます。
- 新学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力と位置付けられた「情報活用能力」について、教科等横断的にその育成を図るとともに、プログラミング教育やICT教育等を推進していきます。

① 『おおたま学園』のより一層の推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
幼・小・中一貫的教育推進事業	○幼稚園教育要領、学習指導要領の理念を踏まえ、未来を担う子どもたちの資質・能力を育む教育活動の具現を図るため、幼稚園・小学校・中学校のつながりを重視したカリキュラムを作成し、実施改善を行う。 ○感染症対策を継続しつつ、幼・小・中の園児・児童・生徒及び教職員の交流を積極的に推進し、日々成長し続ける子どもたちを真ん中において校種を越えた学び合いを大切にしていく。特に教職員の交流に関わり、授業研究や研修等のおおたま学園各種委員会の主体的な活動を積極的に支援する。			
幼稚園教育の充実	○3年保育実施の8年目にあたり、非認知能力を育み、幼稚園と小学校をつなぐ実効性のあるカリキュラムの編成・実施・改善に努め、幼児教育の充実を図る。 ○保護者意識調査を実施し、幼稚園と家庭や地域等が連携・協力して一人一人の育ちを大切にした教育を行う。			
	○園児の適切な栄養摂取、望ましい食習慣の確立とともに、協同の精神を養うことを目的に、保護者のニーズに応じた弁当給食について、調査・検討・実施を図る。			

② 個を伸ばし、確かな学力を育む教育活動の充実

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
学力向上推進事業	○おおたま学園オープン・スクールの開催により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導力の向上を図る。特に、教師の「話す」授業から、教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業への質的転換を図り、すべての子どもが「学び出す」「学び合う」「学びとる」授業へ改善していく。 ○学び直しの時間を設け、基礎学力向上に向けた取組を支援する。 ○A Iドリル等を活用した「個別最適な学び」とペア学習やグループ学習等を取り入れた「協働的な学び」の一体的な取組を支援し、誰1人取り残さない指導を実践する。 ○各校が全職員で全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査を詳細に分析し、個に応じた指導の一層の充実ができるように支援する。 ○おおたま版「家庭学習スタンダード」の改善・活用により、「自己マネジメント力の育成」につながる家庭学習や漢字検定及び英語検定等の受検を積極的に推進する。			
外国語教育推進事業	○小学校3・4年中学年では外国語に慣れ親しませコミュニケーションを図る素地となる力、5・6年高学年では段階的に「話すこと」「聞くこと」に加え「読むこと」「書くこと」についても基礎的な力を育む授業を工夫する。 ○小学校に英語専科教員を配置し、本務校及び派遣校の外国語教育の質的向上及び教員の指導力向上、児童の学力向上を図る。 ○小学校に外国語指導講師、中学校に外国語指導助手を配置し、ティーム・ティーチングによる外国語(英語)教育の充実を図る。 ○幼稚園・小学校1・2年において外国語指導講師と外国語(英語)に触れる活動を行い、外国語(英語)に親しませる。 ○デジタル教材を活用し、十分に外国語の音声に慣れ親しむ活動の充実を図る。			
I C T活用推進事業	○デジタル機器とインターネットの安全・安心な使い方を学ばせて、人権と民主主義を尊重する善きデジタル人を育成するために、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。 ○学習指導要領の趣旨及びG I G Aスクール構想に則り、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」の実現と「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に繋がるように、一人一台タブレット環境を日常的に活用させることで創造的な学習活動の推進を図り、情報活用能力の育成に努める。			

ICT活用推進事業	○教員の指導力向上と学習者主体の学びへの転換という授業改善を図るために、デジタル・シティズンシップ教育とICT支援の充実に努める。 ○教職員の児童生徒と向き合う時間の確保と児童生徒情報の共有化によるきめ細かな指導の充実、さらに教職員の多忙化解消を図るため、統合型校務支援システムの積極的な活用を図り、その改善点を蓄積していく。			
特別支援教育推進事業	○一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成、活用し、学校間での情報共有や引継ぎにより切れ目のない支援体制を構築する。特に、令和7年度に開校するあだち支援学校と情報共有を密にし、中高の連携を強化する。 ○支援を要する園児・児童・生徒が充実した学校生活を送れるように合理的配慮を行うとともに、支援員を園・学校の実態に応じて配置する。 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の整備が図られるよう、おおたま学園特別支援教育委員会を中心とした教職員及び支援員の研修を充実させ、授業のユニバーサルデザイン化を目指し、どの子どもにも理解できる授業を実践する。 ○必要に応じて各校園が地域支援センター（特別支援学校に設置）を活用できるよう、各校園との情報共有及び地域支援センターとの連携を図る。			

③ 体験活動の充実と道徳・人権・平和教育の推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
体験活動推進事業	○特別活動や総合的な学習の時間などにおいて、子どもたちの発達段階に応じた体験活動や幼小、小中、小中の交流活動の充実を図る。 ○「おおたまふれあいフェスタ」をコミュニティ・スクール委員会と地域学校協働本部の連携・参画のもと実施し、地域住民、保護者、学校の一体感を育む。			
道徳教育推進事業	○道徳教育推進教師を要として全教職員共通理解に立った道徳教育を推進する。特に、「道徳科」の趣旨を生かした授業の質的転換（問題意識を持った授業を通して自己の生き方・人間の生き方を考える）と評価の工夫を図ることで児童生徒の道徳性を育む。 ○全教育活動を通じて行う道徳教育を推進するために、別葉の積極的活用を図る。 ○デジタル・シティズンシップ教育のもと、ICTの活用について道徳科を通じて正しい理解と利用について取り組む。			

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
人権・平和教育推進事業	○人権作文コンテストへの参加を奨励する。 ○広島平和記念式典へ児童・生徒の代表を派遣し平和教育の充実を図る。 ○人権を意識した教育活動を積極的に推進する。 (人権教育フィルターを活用デジタル・シティズンシップ教育の推進) ○Q Uアンケートを年2回実施するとともに、学級目標の重要性を教職員が意識して学級づくりに反映させるなど、よりよい学級づくり、聴き合い話し合う学習集団づくりを推進する。 ○「大玉村いじめ防止基本方針」並びに「大玉村立各小中学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめ防止の取組を推進する。			
キャリア教育推進事業	○学校教育と社会教育の融合を図り、連続性・一貫性の中で、地域人材や地元企業の協力のもと、自己有用感・効力感を育む「生き方教育」としてのキャリア教育をより一層推進する。 ○学んだことや体験したことを振り返りながら、自己の将来の生き方や就きたい職業を考えることができるよう、キャリアパスポートを小・中と一貫的に有効活用を図る。			
環境教育推進事業	○本村の豊かな自然を活用し、森林環境保全に向けた学習を進めるとともに、地球温暖化、ゴミの分別やリサイクルなど、教育活動全体の中で教科横断的に体験的な学習を取り入れながら環境教育を推進する。 ○各教科との関連を図った環境教育全体計画の見直しと焦点化を図る。			
スクール・ソーシャルワーカー、スクール・カウンセラー活用事業	○一人一人の個性と尊厳を大切にした教育相談及び指導の充実を図る。 ○幼稚園、小・中学校と関係機関をつなぎ、連携を密にしたケース会議等を実施することにより、問題行動の未然防止（予防）、早期発見、早期対応できる体制の充実を図る。 ○スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーのそれぞれの役割について各校・園に周知し、効果的な活用が図られるよう支援する。			
国内外交流活動推進事業	○国内外の友好都市等との人や文化などの交流活動により、異文化理解を深め、広い視野をもつ人間の育成を図るとともに、自らの住む村を見つめ、郷土を愛する心を育む。特に、姉妹校締結をした台湾桃園市大竹国民中学との直接的な交流やオンライン交流などで積極的な交流の促進を図る。また、ペルーマチュピチュ村の子ども達との交流についても検討を進める。			

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
村民相互の交流・体験活動推進事業	○幼・小・中の交流活動や「小さな親切」運動などの交流活動をおおたま学園全体の取組として充実を図る。			
	○「社会に開かれた教育課程」の実現により、「学校から地域」、「地域から学校」へ積極的に情報を発信することで、子どもたちの豊かな人間性や社会性の育成を図る一環として、地域行事や社会貢献活動への参加を促す。			

④ 安心して学べる教育環境づくり

事務・事業名	事務・事業概要	概算(千円)	主務者	副務者
非常勤講師及びスクール・サポート・スタッフ配置事業	○小・中学校へ非常勤講師及びスクール・サポート・スタッフを配置し、教師が児童生徒と向き合う時間の確保を図り、学習面はもとより学校生活等において指導力向上に努める。			
幼稚園・小中学校施設整備・管理事業	○園庭・校庭の芝生及び各施設・設備等の適正な維持管理を図る。 ○老朽化した施設や設備について、現状の把握を行い、整備に向けた計画策定を進めるとともに安全に配慮した適正な維持管理を図る。 ○2027年度末での蛍光灯の製造と輸出入禁止への対策と快適な学習環境の提供のため、省エネ・環境保護、長寿命などのメリットがあり、眼への負担軽減や安全に安定して明るい環境を維持することができる照明LED化を学校施設全てで実施する。			
学校給食費補助事業	○子育て支援策の一環として、小・中学校の保護者の負担軽減を図るため、学校給食費の全額補助を実施する。			
就学支援事業	○要保護・準要保護及び特別支援教育などの対象となる児童・生徒に対し、給食費、学用品費等の援助を行い、児童・生徒が安心して学べる教育環境の確保を図る。 ○保護者への周知徹底や学校及び関係機関と連携を図り、真に支援を必要とする家庭を把握し、適切に支援する。			
スクールバス運行管理事業	○大玉村立小中学校、幼稚園の生徒、児童及び幼児の通学通園の条件緩和及び教育環境の向上を図る。 ○スクールバスの安全な運行を行うため車両の適正な維持管理を図る。			

地 域 ぐ る む の 学 び の む ら づ く り 【 共 育 】

- 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な取り組みを強化し、家庭・地域と連携・協働による「地域と共に歩む学校」づくりを推進します。
- 世代を超えた交わりの中で、共に支え合い、共に学び、共に育つ教育を推進し、生きがいのための学びはもとより、学びの成果を社会に還元し、活躍するという循環の実現に努めます。
- 各生涯学習施設は、本村の重要な住民活動拠点・内外との交流拠点という認識のもと、長寿命化・更新といった総合管理を適正に進めます。

① 「地域と共に歩む学校づくり」の推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
コミュニティ・スクール推進事業	○幼稚園教育要領、学習指導要領の理念を踏まえ、未来を担う子どもたちの資質・能力を育む教育活動の具現を図るため、幼稚園・小学校・中学校のつながりを重視したカリキュラムを作成し、実施改善を行う。 ○感染症対策を継続しつつ、幼・小・中の園児・児童・生徒及び教職員の交流を積極的に推進し、日々成長し続ける子どもたちを真ん中において校種を越えた学び合いを大切にしていく。特に教職員の交流に関わり、おおたま学園各種委員会の主体的な授業研究や研修を積極的に支援する。			
地域学校協働活動	○地域・連携活動事業 「社会に開かれた教育課程」の実現により、「学校から地域」、「地域から学校」へ積極的に情報を発信することで、子どもたちの豊かな人間性や社会性の育成を図る一環として、地域行事や社会貢献活動への参加を促す。また、学校教育指導の重点の中の「地域人材や地元企業との連携」が掲げられていることから、授業で取り上げられないものについても、企業や行政との連携により活性化を図っていく。 ・小中学生による地域行事への参画 ・公民館事業（わんぱく広場・自然体験） ・地域教育協議会の開催（評価・検証） ・地域学校協働活動推進会議の開催 ○共に学ぶ学習支援事業 小・中学生を対象とした、学びと遊びを融合した学習会や県内の大学との協定を活かした学生ボランティアの協力のもと、学習支援活動や学生も子どもと共に学びあえる環境づくりの充実のための学習会を実施する。 ・小学生「おおたまっ子学び舎塾」 ・中学生「中3生 共に学ぶ『おおたま未来塾』」			

地域学校協働活動

○学校支援事業（学校支援ボランティア）
 学校からの支援要請により、学習支援をサポートするための登録ボランティアを派遣する。また、各小・中学校の地域連携担当教職員との連携を図るため、コーディネーターが学校を巡回し、連絡調整や学校支援を行う。

- ・地域連携担当教職員との連携
- ・学校支援コーディネーター学校巡回訪問
- ・ボランティア研修会の実施

○放課後支援事業
 異学年交流を通じて、放課後の安心・安全な居場所づくりを提供し、学習やスポーツ、体験活動等を通じた交流を実施する。

- ・放課後子ども教室（玉井・大山各教室）

○親の学びや子育てを応援する家庭教育支援事業
 地域（企業）関係機関・団体等と協力・連携して、保護者への学習機会の提供や親子参加型の行事など、気軽に相談できる話し合いの場づくりを図る。

- ・家庭教育支援チーム会議の開催
- ・子育て応援チラシ「たまちゃんネル」発行
- ・参観日等の空き時間を活用した「お休みスペース」開設
- ・親子で参加できる講演会・事業の実施
- ・県家庭教育支援企業の拡充と学習会の開催

○健康ポイント事業
 ・社会参加の観点から、毎年ボランティア登録（更新）の際に健康ポイントを付与。

○部活動地域展開
 ・将来的な部活動の地域展開に伴う支援体制づくりの推進を図る。

② ライフステージに応じた学習活動の支援

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
生涯学習推進事業	○村の施設、公民館などにおいて、生きがいづくりのための学びの場を提供し、ライフステージに応じた生涯学習の機会を提供する。また、学びの成果を社会に還元し循環を図るため、村民の学習ニーズに応じた学習機会の拡充と情報の提供を行う。 ○社会の急激な変化に対応できるようICT機器の利用講座の実施、ICT機器を利用したオンライン学習等の機会を提供する。 ◇一 般「パソコン・スマホ教室」 ○音楽（楽器演奏）を学生時代まで行っていた人や現在も行っているが披露の場所がないといった村民のために、学習機会の場を提供する。 ◇一 般「おおたま合奏部」 ○村民の学習ニーズ（趣味）に応じた、生きがいづくりの学びの場を提供する。 ◇一 般「生きがい探しセミナー ライフ探検隊」 ○生涯学習事業サポーターズサークルが主体的に活動できるよう支援する。			
家庭教育推進事業	○幼稚園、小・中学校での講演会、子育て支援交流事業（観劇等）を実施し、各年代のニーズに応じた学習機会の提供を行う。 ◇幼稚園「子育て支援交流事業（人形劇鑑賞）」 ◇幼・小・中PTA講演会等			
少年教育推進事業	○創造性、主体性のある健全な子どもの育成を図るために、小学3年生を対象とした「わんぱく広場」を実施し、村内の関係団体の協力や公共施設の活用により、様々な体験学習を提供する。 ◇小学生「わんぱく広場」			
青年教育推進事業	○S.E support netを募集し、村内在住高校生等へのボランティア学習の場を提供するとともに自己研鑽のための視野を広げる活動も提供する。 ◇青 年「S.E support net（社会教育ボランティア）」 ・生涯学習事業等への参画・体験学習（わんぱく広場等） ○おおたま二十歳のつどいでは、新成人による実行委員会を立ち上げ、自主的・主体的な活動となるよう活動を支援する。 ◇青 年「大玉村二十歳を祝う会」（2025おおたま二十歳のつどい実行委員会）			

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
成人教育推進事業	○「おおたま生き粋大学」を通して、多くの方が社会参加できる機会を提供する。また、運営委員との協議のもと、健康管理の増進や現代社会に適應できる教養の講座を提供する。 ◇高齢者「おおたま生き粋大学」			
自主学習グループ育成・支援事業	○「ふれあいセミナー」などの自主的な学習グループの育成や、学習ニーズに応じた出前講座・講師等紹介事業を積極的に支援する。特に、地域の人材活用のため、ボランティア登録名簿の定期的な更新及び活用を図るとともに、リーダー育成のための研修会などの開催に努める。 ◇一般「ふれあいセミナー」 ○村民の趣味を始めるきっかけづくりの事業やオンラインを活用した講座の開催を図る。			

③ 読書活動の推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
読書活動推進事業	○読書に親しむ機会の充実を図るとともに、おはなし会の開催や図書ボランティア・読み聞かせボランティア育成など、第二次大玉村子ども読書活動推進計画に基づく取り組みを推進し、本に親しむ機会の充実と読書習慣の定着を図る。 ◇読書に親しむ機会の充実 ・乳児健診時の子育て講座（ブックスタート事業） ・読み聞かせを中心とした「おはなし会」の開催 ・幼稚園、小学校での「朝読」による読書習慣の定着 ・親子で参加できる読み聞かせ研修会・講演会の開催 ◇読書環境の整備と充実 ・学校司書、各校読書サポートティーチャーとの連携 ・学校図書館並びに公共図書館の利用環境の整備 ・メディア情報リテラシーの活用 ・移動図書館車による小学校への定期運行 ・図書購入に係る事前調査・廃棄 ◇読書活動についての理解の促進 ・保護者や読書ボランティアへ向けた研修会の開催 ・親子読書奨励賞実施による利用促進			

④ 学習施設の維持管理・長寿命化

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
生涯学習施設整備管理事業	○村内各生涯学習施設等の適切な運営管理や農村環境改善センター施設と施設周辺の利用環境の更なる充実を図る。			

子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】

- 夢の実現に向かってねばり強く取り組む、豊かで強い心と、たくましい身体を持った人を育てます。
- 生涯にわたってスポーツに親しみ、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができる環境をつくれます。

① 健康な体づくりの推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
学校体育支援事業	○あだたら健康マラソン、大玉村小学生水泳大会への参加を支援する。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析を基に、体力向上推進計画を工夫・改善し、体育の授業や体育的行事が充実するための支援を行う。			
健康教育・保健事業の充実と食育の推進	○健康教育の推進のため、学校・家庭・地域・関係機関が連携し、保健学習・保健指導や感染症予防教育、肥満解消に向けた取り組みなどの充実を図るとともに、規則正しい生活習慣の育成に努める。 ○子どもたちの歯の健康を守るため、関係機関と連携しフッ化物洗口事業及び歯みがき指導や歯の健康教室の推進を図る。 ○給食センターをはじめとした各関係機関と連携し、子どもたちの心身の健全な発達や、食に関する正しい理解、望ましい食習慣などについて学ぶ食育の充実を図る。			

② スポーツ活動の推進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
おおたまスポーツクラブ事業	○既存サークルの支援および各種スポーツ教室やイベント等の開催を支援する。また、指導者の育成支援と、クラブ会員数や参加者数の増加を図り、誰もが持続的にスポーツを楽しむことのできるクラブ運営を図る。また、健康ポイント該当事業としてポイントを交付し、健康の増進を図る。			
社会体育関係団体支援事業	○各種社会体育団体の活動支援を通じて、スポーツ団体の活性化を図る。また、健康ポイント該当事業へのポイントを交付し、健康の増進を図る。 ◇スポーツ協会運営支援 ◇あだたら健康マラソン大会実行委員会運営支援			
	○スポーツ推進委員会を中心として、スポーツ協会・スポーツクラブ等の組織間の連携強化を図り、地域スポーツの在り方を検討する。 ○将来的な部活動の地域展開に伴う支援体制づくりの推進を図る。（再掲）			

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
ふくしま駅伝大玉村実行委員会事業	○指導者や中学校、スポーツクラブランニングクラブと連携し、選手の確保や将来のランナー育成、記録の向上を目指す。また、村民が一体感をもって代表チームを応援・支援できるよう実行委員会および選手応援会との連携強化を図る。 ◇ふくしま駅伝大玉村実行委員会運営支援 ◇大玉村駅伝選手応援会運営支援			
村民登山事業	○山頂へ登り切った達成感とともに村の魅力を再発見することができる登山を通して互いの親睦を深めることや健康意識の高揚を図るために「安達太良山」や「大名倉山」の登山を実施する。また、健康ポイント該当事業としてポイントを交付し、健康の増進を図る。 ◇安達太良登山事業（スポーツクラブと連携して実施） ◇村民名倉山登山事業			

③ スポーツ施設の整備促進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
生涯スポーツ施設整備管理事業	○村内各生涯スポーツ施設の適切な運営管理を行う。また、村民体育館の計画的修繕および村民プールの劣化調査を進める。			

ふ る さ と 文 化 の 振 興 【 郷 育 】

- 有形・無形、指定・未指定の文化財「おおたま遺産」の保護と保存、活用を推進し、ふるさとに愛着をもち、伝統を守り引き継ぐ人を育てます。
- 積極的に新たな文化活動に取り組むことができる文化・芸術活動の振興を図ります。

① 歴史文化の保存と継承・活用

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
文化財保護事業	○大玉村歴史文化基本構想において、本村に存在する指定・未指定の文化財を「おおたま遺産」として捉えることとした。この「おおたま遺産」を幅広く捉えて的確に把握し、総合的に保護保存・活用するための構想方針に従い事業を進める。 ◇文化財保護審議会の開催 ◇文化財調査委員会の開催 ◇緊急発掘調査（確認・試掘調査等） ◇国・県・村指定文化財保護管理事業 ◇文化財整備・活用事業 ◇文化財の指定・登録の推進 ◇おおたま遺産の調査研究			
文化財記録保存事業	○村内の貴重な民俗芸能・風俗慣習等の在り方について文化財調査員等の協力を得て聴き取り調査等を行い記録保存を進める。また、伝統技術も後世に継承するために記録保存を進める。 ◇文化財調査員による我が家の年中行事や風俗慣習等の調査			
無形文化財・年中行事伝承事業	○村内の無形文化財や伝統工芸技術保持者の後継者育成、また、風俗慣習伝承のため子どもから大人までを対象とした年中行事再現事業を実施し、伝統文化への理解と認識を深める。さらに、民俗芸能の継承・発展を図るため、村内外の民俗芸能保存団体による民俗芸能大会の定期的開催及び大山小学校での「神原田神社十二神楽」、玉井小学校での「本揃の田植踊」などの授業での取り組みを奨励する。 ◇年中行事再現事業 ◇第5回大玉村民俗芸能大会			
あだたらふるさとホール運営事業	○郷土の歴史及び民俗等に関する資料を収集、保管、展示し、村民の教養の向上と文化の振興を図るため、村の歴史や文化に係る企画展や、時節や社会に添ったテーマで特別展を開催する。また、あだたらふるさとホールの機能の維持・向上を図るとともに、野内与吉氏の功績展示を行う。 ◇ふるさと歴史講演会			

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
歴史と文化を活かした村づくり推進事業	○住民の郷土意識の醸成を図るため、『大玉村歴史文化基本構想』・『おおたま学』を活かしてむらづくりを推進する。また、『おおたま学』やあだたらふるさとホールでの様々な体験活動を通して、子どもから一般まで村の歴史・文化・自然など郷土の魅力を学ぶ機会の拡充に努める。さらに、あだたらふるさとホールを文化・情報の発信拠点として整備・充実に努める。 ◇学校教育・社会教育での「おおたま学」の活用 ◇あだたらふるさとホールにおいて県内の展覧会・講演会等のチラシの配架・掲示			

② 文化・芸術活動の促進

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
ふるさとホール公演会事業	○ふるさとホールの古民家スペースを主な会場とした「おおたまプチミュージアムの会」による、ミニコンサート等の開催を支援する。 ◇コカリナコンサート			
文化のつどい事業	○幅広い年齢層の村民が文化・芸術に触れる機会の拡充を図るための、文化のつどい実行委員会による講演会等の開催を支援する。 ◇三遊亭兼好独演会			
文化祭事業	○各種団体が参画する実行委員会方式の文化祭開催により、多くの村民に文化・芸術活動の発表や鑑賞の機会を提供します。さらに、多くの団体の協力を得て展示や催事など開催内容を充実し、さらなる発展を図る。			
文化・芸術活動の情報発信	○文化・芸術活動について、公共施設や広報紙、村ホームページ等を通して広く村民への情報提供に努める。 ◇あだたらふるさとホールにおいて県内の展覧会・講演会等のチラシの配架・掲示			

4 つの『育』を支える【基盤】づくり

- おおたまの教育を支える基盤づくりのため、学校評価による学校経営・運営の充実と事務事業の点検評価などによる教育委員会機能の充実、改善を図ります。
- 教職員の学び合いを推進し、資質・能力の向上に向けた研修の充実を図るとともに、教職員の働き方改革を推進し、児童生徒と向き合う時間の確保や積極的な自己研さん等によって、質の高い教育活動を展開し、学校全体の教育力を高めます。
- 多様な学びを支援する人材を育成するとともに、地域人材の参画により、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えます。

① おおたまの教育を支える基盤づくり

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
学校評価・教育委員会評価推進事業	○コミュニティ・スクール委員会の活動と関連づけながら、学校の自己評価・学校関係者評価を効果的に実施するとともに、第三者評価を推進し、学校課題を的確に捉えた学校経営・学校運営を支援する。			
	○教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行うとともに、外部の専門家による事務点検評価を実施し、業務の改善に努める。			
教職員研修推進事業	○おおたま学園の組織を活かし、外部講師等を積極的に活用した授業研究会を計画的に開催することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業実践を行うことのできる資質・能力の育成を図る。 ○各校が全職員でふくしま学力調査及び全国学力・学習状況調査結果を分析し、授業改善の視点を明確にすることで、校内研修の活性化を図ることのできるように支援する。 ○オープンスクールにおいて、学校教育指導の重点を視점에据えた共通実践ができるように支援するとともに、研究協議会の内容を共有する機会を設け、授業力の向上を図る。 ○デジタル・シティズンシップ教育の研修を支援する。			
教職員の働き方改革の推進	○福島県教育委員会が策定した「教職員働き方改革アクションプラン」に基づき、非常勤講師やスクール・サポート・スタッフ、スクールソーシャルワーカー、ICT支援員、特別支援教育支援員、外国語専科教員の継続配置。校務や行事の見直し・改善。部活動指導員の配置や部活動改革に伴う支援体制づくりの推進。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実による継続的な学校支援など、教職員の働き方改革を推進する。			

事務・事業名	事務・事業概要	概算（千円）	主務者	副務者
地域人材の発掘と参画	○生涯学習事業活動を支援する「指導者登録名簿」の更新と活用により、村民の多様な学習ニーズに応えられるよう努める。 ○「学びの還元と循環」を図るため、地域学校協働本部の活動を充実させ、大人も子どもも共に学び合い、育ち合うことができるよう学校と地域の連携・協働活動を推進する。			
行政や関係機関との連携強化	○複雑・多様化する教育問題に対応するため、福祉や産業などの行政機関や村内外の関係機関との連携強化によるネットワークづくりの推進を図る。			

7. 教育財政

(1) 村一般会計予算

		歳 入
1,698,965千円 (35.1%)		地方交付金
978,397千円 (20.2%)		村 税
624,235千円 (12.9%)		国庫支出金
425,327千円 (8.8%)		県支出金
317,360千円 (6.6%)		繰入金
229,400千円 (4.7%)		村 債
193,505千円 (4.0%)		地方消費税交付金
80,000千円 (1.7%)		繰越金
66,162千円 (1.4%)		地方譲与税
50,001千円 (1.0%)		寄付金
33,819千円 (0.7%)		使用料及び手数料
74,923千円 (1.5%)		諸 収 入
70,497千円 (1.5%)		そ の 他
4,842,573千円 (100.0%)		合 計

歳 出	
民 生 費	1,419,762千円 (29.3%)
総 務 費	773,310千円 (16.0%)
教 育 費	751,226千円 (15.5%)
農林水産業費	411,920千円 (8.5%)
公 債 費	395,251千円 (8.2%)
衛 生 費	324,845千円 (6.9%)
土 木 費	234,712千円 (6.1%)
消 防 費	234,712千円 (4.8%)
商 工 費	103,724千円 (2.1%)
議 会 費	71,913千円 (1.5%)
そ の 他	52,012千円 (1.1%)
合 計	4,842,573千円 (100.0%)

(2) 教育予算

単位：千円

	目	本年度当初額	前年度当初額
1 教育総務費 286,501	教 育 委 員 会 費	1,115	1,093
	事 務 局 費	269,792	224,054
	恩給及び退職年金費	15,594	15,579
2 小学校費 76,034	学 校 管 理 費	62,558	26,038
	教 育 振 興 費	13,476	10,424
3 中学校費 36,368	学 校 管 理 費	25,044	13,281
	教 育 振 興 費	11,324	8,889
4 幼稚園費 198,857	幼 稚 園 費	198,857	188,773
5 社会教育費 36,348	社会教育総務費	15,700	14,610
	公 民 館 費	4,945	4,722
	文 化 財 保 護 費	2,064	1,927
	ふるさとホール管理費	13,639	13,106
6 保健体育費 117,118	保健体育総務費	13,131	13,566
	体 育 施 設 費	30,563	28,232
	給食センター費	73,424	61,958
計		751,226	626,252

「地域と共に歩む学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を実現するための連携・協働

C S 活動



C S 委員会



オープンスクール

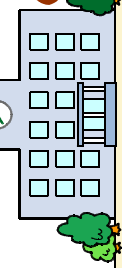


ふれあいフェスタ



コミュニティ広場

学校

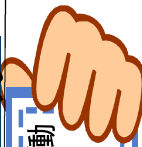


ワンパッケージ(両輪)

で進める、より効果的な連携・協働

ー 大玉らしさを生かした地域学校協働活動の推進

地域



おおたま学園コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール委員会

- 学校運営の基本方針の承認
- 学校運営に関する意見
- 学校と地域住民等の連携・協働の促進等
- 学校評価に関する意見

連携・協働

CS 委員と地域教育協議会委員を兼務

- ◇地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、「社会に開かれた教育課程」「地域と共に歩む学校」を実現
- ◇地域住民による地域学校協働活動の実施
- ◇学校を核として、地域の大人と子どもが学び合い、地域コミュニティを活性化
- ◇学校の負担軽減の促進

熟考 熟議

- 自校・園の窓口
- ・教職員との連絡調整…情報や意見の収集
- ・協働活動推進員(各種CN)との連絡調整、関係団体、ボランティア等との事前打合せ
- 協働活動推進員協議会、各種打合せ会等への参加
- 連携・協働活動の実践と教職員への支援
- 各種研修会への参加と研修内容の教職員への伝達



地域連携担当教職員

実践

- 地域の窓口(教育委員会生涯学習課内)
- ・連携・協働活動…学校支援CN、統括・地域CN
- ・学習支援活動…統括・地域CN
- ・家庭教育支援活動…家庭教育支援CN
- ・放課後支援活動…放課後子ども教室CN
- 連携・協働活動、放課後支援活動、土曜日・長期休業中の学習支援活動、家庭教育支援活動等の企画や調整、支援・活動等の確保、研修会の開催
- ボランティア等の確保、研修会の開催
- ボランティア等
- 協働活動推進員協議会の開催と参加
- 広報活動、アンケート集計等

連携・協働の推進体制の整備

総合教育基本計画(前期)

「夢を育てる教育」おおたまに学び、世界とつながる人間の育成
～ みんなで支え、みんなが育つ 大玉の教育 ～

- 幼・小・中が一貫した教育の推進「響育」
- 地域ぐるみの学びのむらづくり「共育」
- 子ども健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり「強育」
- ふるさと文化の振興「郷育」
- 4つの「育」を支える「基盤」づくり

熟議の場



◆よりよい連携・協働を進めるための4つのポイント

- ① 目標やビジョンの共有
- ② 組織や連携のしくみの確認
- ③ 役割を明確にした取組
- ④ 成果や課題の共有

協働活動等



学校支援



民俗芸能体験



ブックスタート



来塾・学び舎



放課後子ども教室等

連携

地域のネットワーク

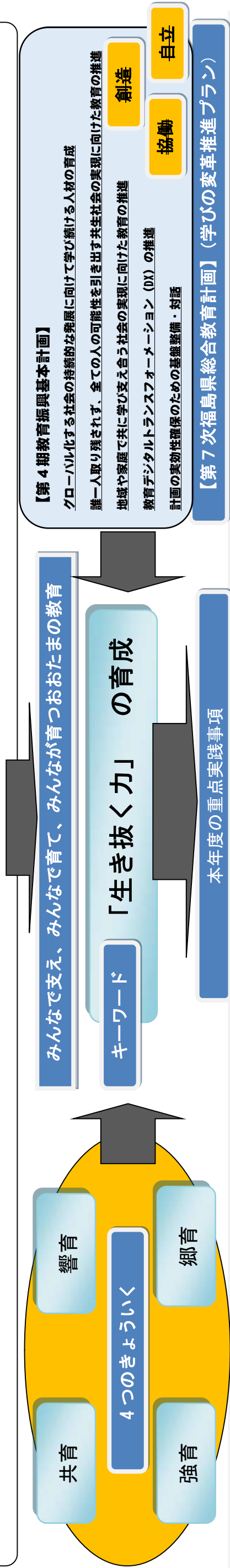
- 村域学校協働活動推進会議
- 各種ボランティア
- PTA
- 教員OB
- 地域の青少年・成人・高齢者
- 文化・スポーツ団体
- 社会教育関係団体
- 保健・福祉関係機関・団体
- 行政機関
- 地元企業
- 大学生
- 高校生
- 警察・消防等
- 各種関係機関
- 各種関係機関

令和7年度 大玉村 幼稚園教育指導の重点

大玉村教育委員 会

【大玉村が目指す教育】「夢を育てる教育」～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～

【大玉村の目指す人間像】①共に支え合い、自尊心をもった人 ②多様な個性を生かし、未来を切り拓く力をもった人 ③あきらめない強い心と健康な体をもった人 ④共生の心をもった人 ⑤社会性・市民性をもった人

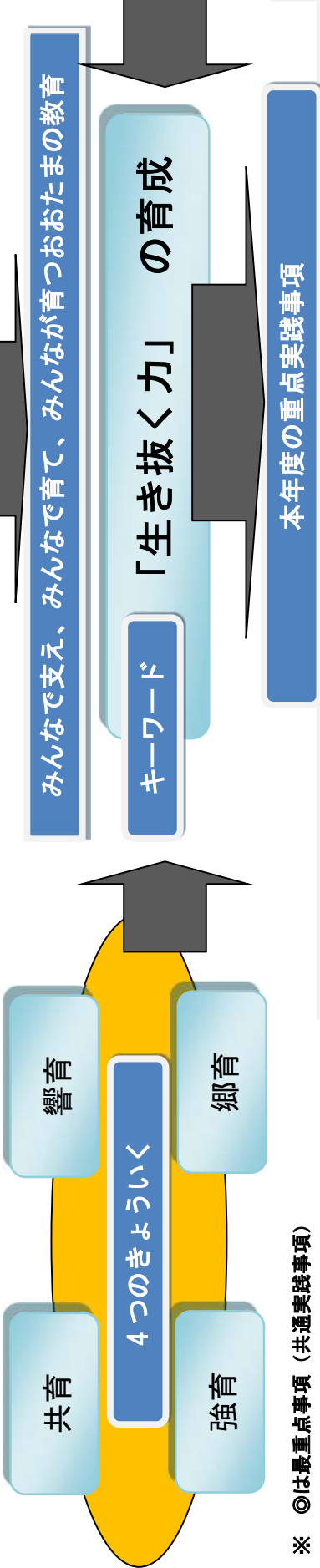


【幼稚園・学校・家庭・地域の連携強化（社会に開かれた教育課程）】コミュニティ・スクールの充実／おおたま学園構想による教育の推進

重 点	1 家庭・地域人材の学校運営への参画推進 2 地域人材の積極的活用 3 幼児・児童・生徒・教職員の積極的な交流 4 幼稚園・学校・家庭・地域が一体となった体験活動の実施 ○ 社会に開かれた教育課程 ○ チームおおたま、チーム学校（おおたま学園各種委員会の活性化、教職員の連携、交流） ○ 地域学校協働活動事業を核とした地域住民の参画 ○ 各校園学校運営協議会の充実 ○ おおたま学園内の交流活動の充実（幼・幼・小、幼・中）○ 幼保小架け橋プログラムによる教育の充実（国語科への接続） ○ 新教育要領実施による教育課程の編成・実施・改善 ○ 非認知能力の育成 ※5領域と重点目標との関係（人）…健康（健）…人間関係（環）…環境（言）…言葉（表）…表現
目 標	豊かな心情と人とかかわる力の育成（人と関わる力） 1 自分の思いを言葉等様々な方法で表現できるようにする。（言） 2 異なる思いにふれ、葛藤したり受け入れたりできるようにする。（言）（人） 3 友達と一緒に遊び、達成感を味わえるようにする。（人）
重 点 施 策	○ 幼稚園生活の中で開放感を味わいながら、自己を発揮できる環境作り。 ○ 自分の思いを言葉など様々な方法で表現できる環境作り。 ○ 自分とは異なる思いにふれ、葛藤したり折り合いをつけることができる場。 ○ 友達とやり遂げたり達成感を味わったりする活動や場の保障 ○ 挨拶の推進 ○ 読み聞かせの充実 ○ 豊かな体験活動の充実 ○ 自然体験（動植物の飼育・栽培） ○ 異年齢集団・高齢者・社会体験・自然体験（動植物の飼育・栽培） ○ おおたま・オータム・フェスタ ○ 約束やきまりことを守ろうとする体験や環境の工夫。
基 盤	◎ よりよい学級づくり ◎ 聴き合い、話し合う学級集団の育成 ◎ 人権を意図した教育活動の推進（人権教育フィルターの活用） ◎ 一人一人に応じた特別支援教育の充実（支援体制づくり、合理的配慮の実施、進学時の適切な引き継ぎ、地域支援センターの活用） ○ 生徒指導の機能を活かした実践（自己決定、自己存在感、共感的人間関係） ◎ 保護者生活アンケートを生かした実践（個に応じた指導援助、保護者との連携強化） ○ 困難を乗り越越える態度の育成 ○ 自主性・自立性を育む教育活動の展開 ○ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの積極的な連携（チーム学校） ○ 小さな親切運動（村いっばい）に広げよう（いのちの輪） ○ 健康福祉課・保育所等との連携 ○ 保護者との相談・交流、情報提供の充実（幼稚園子育て講演会の開催） ◎ 基本的な感染症対策の充実 ◎安全管理マニュアルの作成・見直し ◎ 学びを支える環境構成（園舎内・園庭）の工夫
育みたい姿	【教育環境の整備】 ○共に学び おおたまの共育サポート事業 ○芝生を生かした活動の推進 ○読書環境の充実（おすすすめ図書100選の活用） ○日本で最も美しい村連合推進事業 幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 姿（10の姿） ◎道徳性・規範意識の芽生え ○健康な心と体 ◎思考力の芽生え ○社会生活との関わり ○言葉による伝え合い ○自立心 ○自然との関わり・生命尊重 ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ○豊かな感性と表現 【令和7年度 重点事項】※ 主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分体験「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「工夫する」 ※ 自分の気持ちをしきりと主張し、友達とたくさん言葉を交わし合う体験 「言葉による振り返り」「伝え合いの場を工夫」「わくわくThinkingタイムの充実」（非認知能力の育成を目指し、年間計画の見直し） ※ 教師は、一人ひとりの成長を認め、自分の力を発揮し、遊びが発展できるようにコーディネート ※ 幼児の思いや願いを生かし、連続性を大切にしたい幼小交流を実施 ※ 架け橋期のカリキュラムの工夫・改善（国語科への接続） 【小学校への接続を見据えた、幼児期における接続期カリキュラム（アプローチャカリキュラム）】 【幼稚園の学びを生かした、小学校入学期における接続期カリキュラム（スタートカリキュラム）】

【大玉村が目指す教育】 「夢を育てる教育」～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～

【大玉村の目指す人間像】 ①共に支え合い、自尊心をもった人 ②多様な個性を生かし、未来を切り拓く力をもった人 ③あきらめない強い心と健康な体をもった人 ④共生の心をもった人 ⑤社会性・市民性をもった人



※ ◎は最重点事項（共通実践事項）

【幼稚園・学校・家庭・地域の連携強化（社会に開かれた教育課程）】コミュニティ・スクールの充実／おおたま学園構想による教育の推進

- 1 家庭・地域人材の学校運営への参画推進 2 地域人材の積極的活用 3 幼児・児童・生徒・教職員の積極的な交流 4 幼稚園・学校・家庭・地域が一体となった体験活動の実施
- 社会に開かれた教育課程 ○ チームおおたま、チーム学校（おおたま学園各種委員会の活性化、教職員の連携、交流） ○ 地域学校協働活動事業を核とした地域住民の参画
- 各校園学校運営協議会の充実 ○ 福大との連携を生かした学生ボランティアの参画 ○ SDGsの視点を取り入れた学びの推進 ○ デジタル・シティズンシップ教育の推進
- おおたま学園内の交流活動の充実（幼・小、小・小、小・中、特支交流） ○ 新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施・改善（カリキュラム・マネジメント）

【豊かな人間性・社会性】 自他のよさを認め合う心の育

- 1 自他のよさがわかる心の基盤づくり
- 2 自他のよさを認め合う人間関係づくり
- 3 一人一人のよさを伸ばし機能する指導体制づくり

- ◎ 心に響く道徳教育の推進
 - ・ **考える道徳、議論する道徳への質的転換**（自己を見つめる）、別業の活用
 - ・ 村の重点内容項目「思いやり」「強い意志」
- ◎ いじめに関する問題を自分自身のこととして考える指導の充実
 - ・ 豊かな体験活動・交流活動の充実
 - ・ 異年齢集団・自然体験・動植物・身近な友達
 - ・ 高齢者・職場体験（社会体験）・おおたま・オータム・フェスタ
 - QJの効果活用
 - 集団の一員としての自覚を深めさせる特別活動の指導の工夫
 - 郷土学習の充実・生活科、総合的な学習の時間の充実
 - 性に関する指導と性被害に遭わない指導の充実
 - キャリア教育の充実
 - 特別支援教育の充実・教育相談・関係機関と連携した切れ目のない支援体制
 - 心の健康教育の充実（SOSの出し方等）

【健やかな体】 生活習慣づくり、体力づくり

- 1 健康で安全な生活の実践をめざす習慣づくり
- 2 生涯にわたって健康を支える食育及び体力づくり
- 3 考え判断し行動できる力を育む防災教育、放射線教育の充実

- ◎ 家庭との連携による基本的な生活習慣の確立
 - ・ 「運動・食事・睡眠」への意識の向上
- ◎ 多様な運動感覚を養う運動身体づくりプログラムへの推進
- 新体力テスト等による実態の把握及び体力向上推進計画に基づく具体策の実行
 - ・ 体力向上に関する取組と指導方法の工夫・改善
- 自主的に運動に取り組む場や機会の工夫
- 歯磨き・フッ化物洗口・汗の処理・手洗いなど衛生的な習慣の確立
- 主体的に判断し、行動する態度を育む食育、安全教育、防災教育、放射線教育の実践
- 感染症に対する正しい知識の理解と実践
- 健康マネジメント能力の育成（自分手帳等の活用）

【確かな学力】 基礎学力の確実な定着

- 1 学びを支える学習基盤づくり
- 2 学校、学年、教科を超えて一丸となって取り組む体制づくり
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり

- ◎ ねらいを明確にした単元構想・授業構想（単元・授業の終わりの子どもの姿の具体化）、発問の工夫、**精選された発問**、必然性のある話し合い活動、教師のコーディネート、まとめと振り返りの工夫
 - ・ 「よくしる」の『授業スタンダード』の活用
 - ◎ 学びの習慣を育てる「授業」と「家庭学習」の学習サイクルの確立
 - ・ 「よくしる」の『家庭学習スタンダード』と「おおたま版『学びのスタンダード』」の活用（内容・方法の見直しによる質・量の充実）
 - ◎ 総合的な学習の時間における探究活動の充実（郷土理解の促進）
 - ◎ 学び直しの時間の確保と基礎学力の確実な定着
 - へア学習やグループ学習などの学び合いによる誰一人取り残さない指導の工夫
 - 実効ある研修と教員の学び合いの推進（おおたま学園、各校）・外部講師の積極的活用
 - 読書活動の推進、読み聞かせの充実（学校図書館の活用、家族読書の普及）
 - ◎ **専科指導員やALTを積極的に活用した外国語教育の充実**
 - 情報活用能力の育成（ICT等の効果的な活用による学習活動の充実）
 - 個別最適化された学びと協働的な学びの一体的な充実と探究的な学びの充実
 - **理数教育の自然災害に関する内容の充実**

3つの基盤づくり（①人権教育 ②集団づくり ③家庭・地域・関係機関との連携）の積極的な推進

- ◎ よりよい学級づくり（学級目標の活用） ◎ 聴き合い、話し合い、考えを深め合う学習集団の育成 ◎ 家庭・地域社会・関係機関との一層の連携
- ◎ 人権を意識した教育活動の推進（人権教育フィルターの活用） ○ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実（校内支援体制づくり、合理的配慮の実施、進学時の適切な引き継ぎ、地域支援センターの活用）
- 生徒指導の機能を活かした授業実践（自己決定、自己存在感、共感の人間関係） ○ 一人一人に寄り添った生徒指導の充実（いじめ、不登校、問題行動等の未然防止と早期発見、早期対応）
- 困難を乗り越える態度の育成 ○ 自主性・自立性を育む教育活動の展開 ○ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの積極的な連携（チーム学校）
- 小さな親切運動（村いっばいに広げようあいさつの輪） ○ 健康福祉課・保育所等との連携 ○ 保護者との相談・交流、情報提供の充実（子育て講演会の開催）
- ◎ 感染症対策と学びの保障の両立を図るための環境整備 ○ スタートカリキュラムの充実 ○ 安全教育計画と防災教育計画の見直しと充実

【教育環境の整備】 ○ 共に学ぶ おおたまの共有サポート事業 ○ 芝生を生かした活動の推進 ○ 学校図書館を含めた読書環境の充実（おすすめ図書100選の活用） ○ 日本で最も美しい村連合推進事業

- 自分からあいさつができる幼児児童生徒の増加
- 不登校児童生徒の減少
- いじめで悩む児童生徒 ○（いじめ見逃し[※]） ○

- 新体力テスト体力合計点 県平均以上
- 肥満傾向幼児児童生徒 減少
- 朝食の摂取率向上
- ゲームや動画などのメディアコントロール達成率の向上

- ふくしま学力調査 前年度から学力が伸びた児童生徒の割合 県平均以上
- NRTにおいて平均偏差値前年以上
- 全国学力学習状況調査 全国平均以上（標準化得点100）
- ICTを活用した学習活動の増加

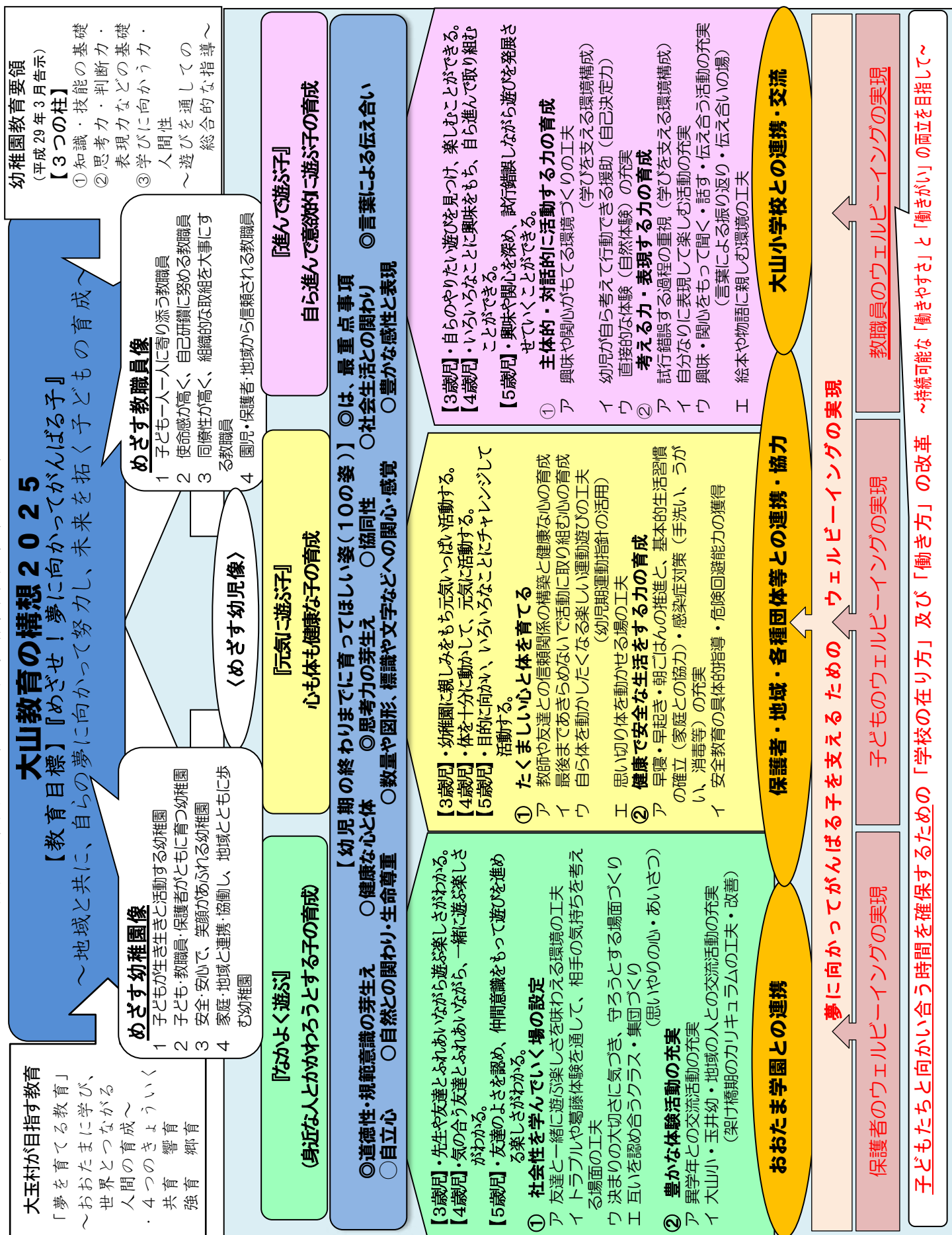
11. 各学校概要等

【大山幼稚園】

所在 大玉村大山字谷地 1 園児数 100名

園長 澤藤 晃治 副園長 二瓶 博子

昭和 47 年 4 月	大山小学校内に大山幼稚園を設置(園児20名)
昭和 49 年 4 月	新幼稚園舎竣工、移転(総工費1,840万円)
昭和 51 年 3 月	国旗掲揚塔設置
昭和 54 年 4 月	保育室を増設、2クラス開設
昭和 58 年 4 月	2年保育開始。2年保育4歳児2クラス・1年保育5歳児2クラス開設
昭和 58 年 8 月	園庭拡張
昭和 59 年 5 月	シーソー設置
昭和 59 年 6 月	ブランコ設置
昭和 62 年 6 月	新園舎第1期工事完成
平成 2 年 3 月	園庭拡張、すべり台、砂場、アスレチックジム、築山、傘型はんとう棒、花壇、水のみ場設置
平成 4 年 6 月	物置設置
平成 4 年 12 月	創立20周年記念式典挙行
平成 5 年 10 月	学校図書館研究大会公開保育
平成 7 年 10 月	県北ブロック研究大会公開保育
平成 15 年 2 月	創立30周年記念式典挙行
平成 16 年 4 月	預かり保育開始
平成 18 年 4 月	早朝預かり保育開始
平成 22 年 7 月	耐震改修改築工事着工
平成 23 年 2 月	新園舎完成(既存2保育室は改修、他は新築)
平成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平成 23 年 5 月	放射線汚染園庭表土除去工事完了
平成 24 年 12 月	創立40周年記念式典挙行
平成 25 年 6 月	園庭芝生化実施
平成 26 年 5 月	園庭固定遊具更新完了
平成 30 年 3 月	3年保育に係る園舎増築工事完了
平成 30 年 4 月	3年保育開始 2クラス増
令和 4 年 10 月	創立50周年記念冊子作成



【玉井幼稚園】

所在 大玉村玉井字大壇47-1 園児数 138名

園長 五十嵐 洋之 副園長 後藤 弥和子

昭和 47 年 4 月	玉井小学校内に玉井幼稚園を設置し、2クラスを開設
昭和 50 年 4 月	玉井幼稚園舎竣工・移転
昭和 54 年 8 月	テラスのひさし新設
昭和 56 年 4 月	園章の制定
昭和 57 年 11 月	園舎増築・園庭拡張
昭和 58 年 4 月	2年保育開始により、2クラス増
昭和 58 年 5 月	国旗掲揚塔の設置
昭和 62 年 7 月	園庭に築山・花壇設置
昭和 63 年 7 月	新園舎第1期工事完成
平成 2 年 11 月	玉井幼稚園、園歌制定
平成 3 年 3 月	遊戯室を増設・落成式実施
平成 13 年 11 月	笠立てハントウ棒を設置する
平成 16 年 4 月	預かり保育開始
平成 18 年 4 月	早朝預かり保育開始
平成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平成 23 年 5 月	放射線汚染園庭表土除去工事完了
平成 23 年 10 月	固定遊具設置
平成 24 年 2 月	耐震改修工事完了
平成 24 年 3 月	敷地造成・増築工事完了(既存2保育室及び遊戯室は改修、他は新築)
平成 26 年 4 月	園庭固定遊具更新完了
平成 26 年 6 月	園庭芝生化完了
平成 27 年 5 月	汚染土搬出工事完了
平成 30 年 3 月	3年保育に係る園舎増築工事完了
平成 30 年 4 月	3年保育開始 2クラス増

- ☐ 学校教育法等関係法令
 - ☐ 第7次福島県総合教育計画(頑張る学校応援プラン)
 - ☐ 大玉村学校教育指導の重点
- 「夢を育てる教育」～おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～」

令和7年度 大玉村立井井幼稚園 経営・運営ビジョン

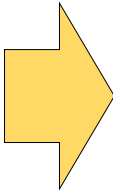
教育目標

自分やふぶるさに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども
・自ら考え、心豊かな子ども ・たくましい子ども

- <保護者の願い>
- ☐ 思考力
 - ☐ 言葉による伝え合い
 - ☐ 道徳性
- R6幼稚園教育アンケート調査「幼児期の終わりに育てほしい姿」より

- <目指す幼稚園像>
- 子どもが生き生きと活動する幼稚園
 - 安全・安心で、笑顔があふれる幼稚園
 - 家庭・地域とともに歩む幼稚園

- <目指す教職員像>
- ・一人ひとりに寄り添う教職員
 - ・使命感が高く、自己研鑽に努める教職員
 - ・同僚性が高く、組織的な取組を大事にする教職員
 - ・園児や保護者、同僚、地域から信頼される教職員



幼児期の終わりに育てほしい姿 ◎村の重点			
◎ 思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	自然との関わり、生命尊重	社会生活との関わり ◎ 道徳性・規範意識の芽生え	豊かな感性と表現 協同性
重点 目標	・自ら考える子ども 自ら考え、進んで行動できる子ども	・心豊かな子ども 思いやりのある子ども	・たくましい子ども 目標に向かって挑戦できる子ども
重点 実践 事項	1 主体的に活動する意欲の育成 ① 一人一人のよさや可能性の把握 成長を認め、個に応じた支援の工夫 ② 興味や関心をもち、活動を選択できるような環境 構成と教材の工夫(学びを支える環境構成) ③ 五感を使った遊びの工夫 ④ 幼児の発見や考えのよさを見逃さず取り上げ、 他の幼児の活動に広め、生かす工夫 2 遊びを創造しようとする意欲の育成 ① 考えたり、分かち合ったりすること(見付ける・比べる・例える 試す・工夫する)楽しさや喜びを十分に体験できる活動 の工夫(学びを支える環境構成) ② 興味・関心をもって最後まで話を聞く・自分の思いや考えを伝え えを伝える活動の充実(言葉による伝え合い・振り返り) ③ 絵本や物語に親しむ環境の工夫	1 思いやりの心の育成 ① 友達と協力して活動することの楽しさを味わえる ような援助の工夫 ② 友達と考えるし合う中で、いろいろな考えがあ ることに気付けるような場や環境の工夫 (わくわくThinkingタイム・非認知能力の育成) ③ 自他のよさや多様性を認め合える心の育成 ④ 元気なあいさつができる環境の工夫(家庭との連携) 2 豊かな体験活動の充実 ① 異学年との交流活動の充実 ② 玉井小、大山幼、地域の方々との交流活動の充実 (おおたまっ子虹の架け橋プログラム) ③ 自然体験、社会体験の充実(散歩・クリーン活動)	1 自ら体を動かして遊ぼうとする意欲の育成 ① 楽しく体を動かせる遊びや環境の工夫 ② 最後まで、あきらめないで活動に取り組む心の育成 ③ 『幼児期運動指針』を意識した遊びの工夫 ④ 思い切り体を動かせる場と時間の確保 2 健康で安全な生活をする力の育成 ① 関係機関との連携による命を守る指導及び訓練 (交通安全教室・避難訓練・防犯教室・クラクション訓練 引き渡し訓練等)の工夫・改善 ② 基本的生活習慣の定着への啓発(家庭との連携) ・各種便りによる呼びかけ ・自分でできることを増やすための見取りと声かけ
重点実践事項			
◎ 基本的な生活習慣の確立 (早寝・早起き・朝ご飯、手洗いやうがい、食事のマナー、排泄、身支度、身辺整理、メディアの正しい関わり方) 非認知能力の育成			
◎ 保護者アンケートを生かした教育相談、個別面談等の充実 ・PTA活動の充実 ・ボランティアの協力 ・HPによる発信			
◎ 地域・地域との連携 ・おおたま学園内の交流 ・地域の「人、もの、こと」にかかわる体験 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携 ・コミュニティ・スクール委員会との連携 ・保健師、保育所等との連携			



【大山小学校】

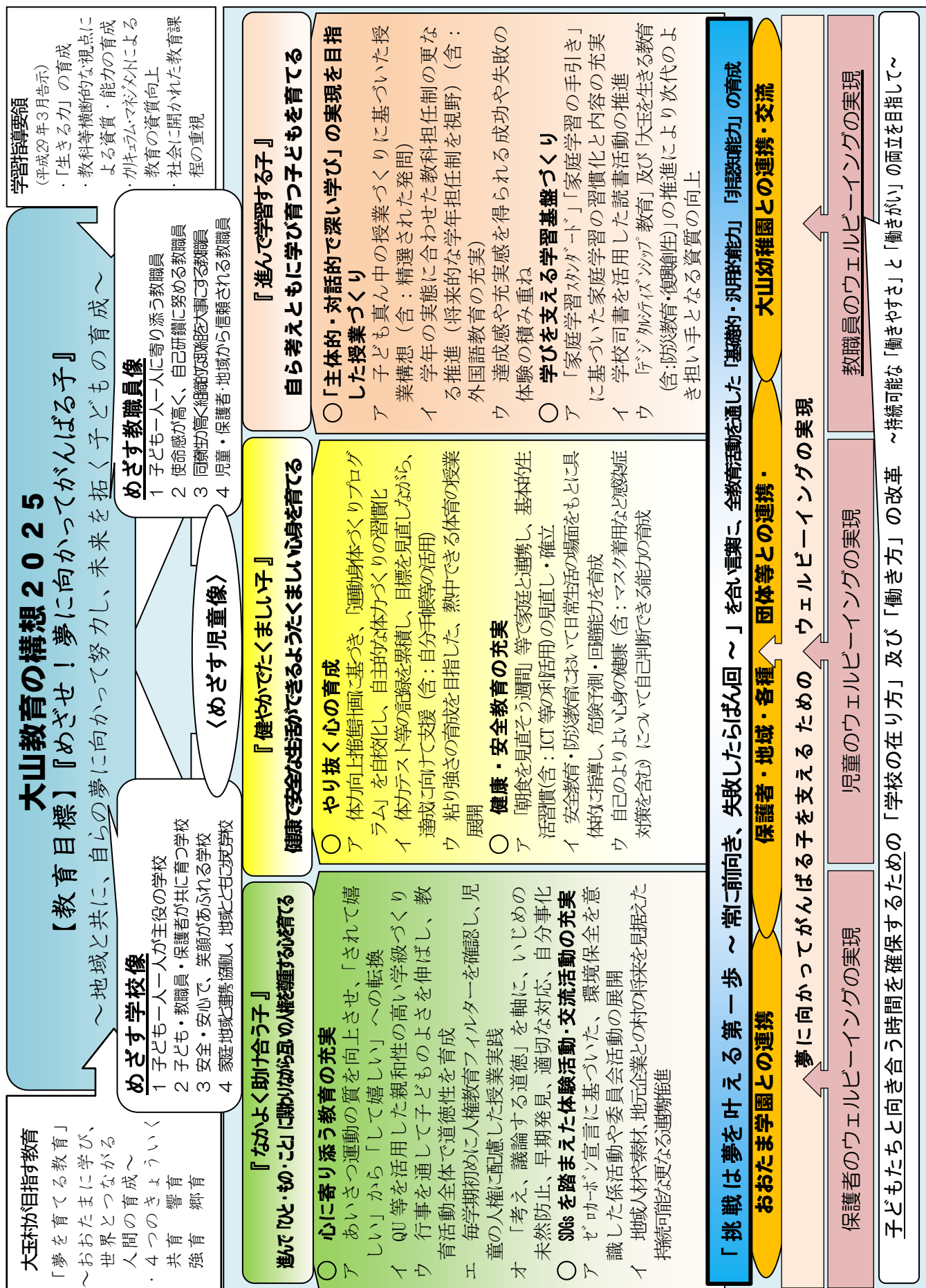
所在 大玉村大山字谷地 1

児童数 281名

校長 澤藤 晃治 教頭 佐藤 圭美

明 治 6 年 9 月	梶山村館、添田喜楽氏の土蔵で授業を開始
明 治 6 年 11 月	大江村真光寺を仮用、大江小学校を開設
明 治 8 年 14 月	大江村字三島に校舎新築移転
明 治 13 年 4 月	梶山村字上の台に校舎新築
明 治 22 年 10 月	杉田尋常小学校梶山分教室は大江小学校梶山分教室に
明 治 26 年 2 月	梶山区を分離して梶山尋常小学校と称する。
明 治 41 年 4 月	大江梶山尋常小学校を廃止して大山尋常小学校と改称
大 正 2 年 10 月	現在地に校舎を新築し開校式を行なう。
大 正 9 年 3 月	高等科を置き、大山尋常高等小学校と改称
昭 和 16 年 4 月	新校舎第 1 期工事完成
昭 和 22 年 4 月	大山村立大山小学校と改称
昭 和 30 年 3 月	大山、玉井両村合併により大玉村立大山小学校と改称
昭 和 34 年 4 月	校舎落成
昭 和 45 年 7 月	プール完成
昭 和 48 年 12 月	大山小学校創立百周年記念式典挙行
昭 和 53 年 3 月	屋内運動場落成
昭 和 55 年 3 月	新校舎落成(現校舎)
昭 和 58 年 4 月	スクールバス運行開始
昭 和 63 年 3 月	プール新設
平 成 5 年 10 月	県学校図書館教育研究大会大玉大会開催
平 成 7 年 10 月	第50回国民体育大会オリエンテーリング参加
平 成 11 年 11 月	旧門柱復元
平 成 13 年 9 月	P C 室改築・P C 設置, 地域イントラネット基盤整備, L A N システム導入
平 成 13 年 12 月	大玉村財務会計コンピュータシステム導入
平 成 14 年 4 月	基礎学力向上支援事業研究開発モデル校(県教委指定)
平 成 15 年 9 月	家庭科室改修
平 成 15 年 11 月	創立130周年記念式典挙行
平 成 16 年 4 月	青少年赤十字研究推進校指定
平 成 17 年 10 月	第29回青少年赤十字福島県指導者研修会並びに学校公開
平 成 18 年 4 月	校庭築山改修
平 成 20 年 3 月	体育用砂場設置
平 成 22 年 2 月	校庭バックネット張替え
平 成 22 年 5 月	地上デジタルテレビ・電子黒板導入
平 成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平 成 23 年 8 月	全教室にエアコン設置
平 成 24 年 3 月	耐震工事完了
平 成 24 年 3 月	二宮金次郎像再建
平 成 24 年 11 月	体育館耐震工事完了
平 成 25 年 5 月	プール漏水工事完了
平 成 25 年 5 月	教育用コンピュータ更新
平 成 25 年 8 月	全学年教室の床張替工事完了

平成 25 年 11 月	創立140周年記念式典挙行
平成 26 年 10 月	太陽光発電施設等工事完了
平成 26 年 12 月	人権教育総合推進事業「おおたま学園公開授業研究会」(第1年次)
平成 27 年 6 月	校庭芝生化事業完了
平成 27 年 11 月	人権教育総合推進事業「おおたま学園公開授業研究会」(第2年次)
平成 29 年 3 月	防犯カメラ設置
平成 29 年 6 月	コンピュータ室空調機器改修工事完了
平成 30 年 1 月	図書室・職員室照明LED化工事完了
平成 30 年 8 月	教育用コンピュータ更新
平成 31 年 4 月	特別支援学級情緒障がい学級「すくすく」新設
令和 2 年 3 月	校務用コンピュータ更新
令和 3 年 1 月	図書室カーペット張替工事完了
令和 3 年 3 月	Wi-Fi 設置工事完了(GIGAスクール)
令和 3 年 5 月	児童用 iPad 配当完了
令和 3 年 12 月	築山改修工事完了
令和 4 年 3 月	なかよし学級教室拡張工事完了
令和 5 年 10 月	創立150周年 体育館スクリーン配備 記念植樹(十月桜)
令和 6 年 6 月	昇降口すのこ新調



【玉井小学校】

所在 大玉村玉井字細田28-3

児童数 301名

校長 五十嵐 洋之 教頭 佐藤 史浩

明 治 7 年 1 月	玉井小学校を相応寺に仮設、玉井分校山入小学校を小菅正福寺に開設
明 治 20 年 4 月	小学校令改正により、玉井小学校は玉井尋常小学校、玉井分校山入小学校は玉井尋常小学校山入分教室と改称
明 治 26 年 4 月	玉井尋常小学校は玉井村立玉井東尋常小学校、山入分教室は玉井西尋常小学校と改称
明 治 29 年 6 月	東西両校を合併し、高等科を設置し玉井尋常高等小学校と改称
昭 和 16 年 4 月	国民学校令施行され、玉井国民学校と改称
昭 和 30 年 3 月	大山、玉井両村合併して大玉村立玉井小学校と改称
昭 和 31 年 4 月	講堂新築落成
昭 和 43 年 4 月	完全給食開始
昭 和 44 年 3 月	新校舎第1期工事完成
昭 和 45 年 2 月	新校舎第2期工事完了
昭 和 45 年 4 月	昭和45・46年度県教育委員会体育科学研究指定校
昭 和 46 年 7 月	学校プール竣工式
昭 和 48 年 12 月	学校創設100周年記念式典挙行
昭 和 53 年 11 月	スクールバス「山なみ号」運行開始
昭 和 55 年 10 月	優良子供銀行として大蔵大臣・日本銀行総裁賞の表彰
昭 和 57 年 1 月	学校創設110周年記念式典挙行
昭 和 57 年 11 月	屋内運動場新築落成
昭 和 60 年 10 月	ソニー賞優良校
昭 和 61 年 4 月	昭和61・62年度文部省指定勤労生産学習指定校
昭 和 61 年 9 月	校庭拡張落成式記念式典
昭 和 61 年 10 月	ソニー賞優秀校
昭 和 62 年 10 月	文部省指定勤労生産学習公開
平 成 1 年 11 月	中国計画生育協会訪問
平 成 7 年 11 月	プール建設工事開始
平 成 8 年 6 月	プール落成
平 成 10 年 10 月	県小教研生活科学研究部会場校として研究公開
平 成 11 年 12 月	屋外物置設置(体育館北側)
平 成 13 年 9 月	コンピュータ室改修・コンピュータ設置
	地域イントラネット基盤整備事業
	光ファイバーケーブルLANシステム導入
	大玉村財務会計コンピュータシステム導入
平 成 13 年 12 月	校舎外壁改装工事
平 成 14 年 10 月	体育館裏フェンス改修
平 成 15 年 3 月	平成15年度安達地方小中学校PTA研究大会大玉大会開催
平 成 15 年 8 月	下水道切り替え工事及び給水管・トイレの改修工事終了
平 成 15 年 9 月	学校評議員(5名)を委嘱
平 成 15 年 10 月	音楽室改修
平 成 16 年 10 月	国旗・校旗掲揚塔設置
平 成 16 年 12 月	家庭科室・家庭科準備室改修
平 成 17 年 9 月	井戸水利用のビオトープ池設置
平 成 18 年 3 月	体育館屋根改修及び屋内照明改修工事
平 成 18 年 8 月	

平成 19 年 1 月	給食配膳室出入り口改修
平成 19 年 10 月	放送室スタジオ、印刷室(職員室)工事
平成 20 年 5 月	教育用コンピュータ更新
平成 20 年 8 月	保健室床改修工事
平成 22 年 3 月	体育館ステージ幕新調
平成 22 年 6 月	50型デジタルテレビ・電子黒板導入
平成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平成 23 年 3 月	耐震改修工事完了
平成 23 年 5 月	放射線汚染校庭表土除去工事完了
平成 23 年 8 月	全教室にエアコン設置
平成 24 年 8 月	校舎周辺除染工事完了
平成 25 年 4 月	消火栓改修工事
平成 25 年 5 月	教育用コンピュータ更新
平成 26 年 1 月	創立140周年記念事業実施
平成 26 年 4 月	校庭新遊具設置完了
平成 26 年 7 月	新校庭芝生化事業完了
平成 26 年 8 月	7教室床張り替え工事完了
平成 26 年 12 月	おおたま学園公開授業研究会(人権教育) 第1年次
平成 27 年 7 月	7教室床張り替え工事完了
平成 27 年 8 月	太陽光パネル設置 体育館照明LED化
平成 27 年 11 月	おおたま学園公開授業研究会(人権教育) 第2年次
平成 28 年 11 月	おおたま学園オープンスクール
平成 29 年 3 月	防犯カメラ設置
平成 30 年 1 月	図書室・職員室照明LED化工事完了
平成 30 年 3 月	給食配膳室床改修工事完了
平成 30 年 8 月	教育用コンピュータ更新
平成 30 年 10 月	福島県警察本部長・福島県交通安全協会会長連名表彰 交通安全優良学校
令和 3 年 3 月	体育館トイレ改修(洋式化)完了
令和 3 年 3 月	Wi-Fi 設置工事完了(GIGAスクール)
令和 3 年 5 月	児童用タブレット設置完了
令和 4 年 10 月	おおたま学園オープンスクール開催
令和 5 年 3 月	県道側駐車場舗装完了
令和 5 年 6 月	おおたま学園オープンスクール開催
令和 5 年 8 月	校長室床改修工事
令和 5 年 11 月	創立150周年記念事業実施
令和 6 年 3 月	防犯カメラ増設(2台)
令和 6 年 6 月	おおたま学園オープンスクール開催



令和7年度
大玉村立玉井小学校 学校経営・運営ビジョン

- 学校教育法等関係法令
- 第7次福島県総合教育計画(学びの改革推進プラン)
- 大玉村学校教育指導の重点
- 「夢を育てる教育」～おおたまたに学び、世界とつながる人間の育成～

<保護者の願い>

- 規則正しい生活習慣、あいさつや返事等を身に付けている子
- 家族や友達、他人に対する思いやりのある子
- 「やるべきこと」と「やりたいこと」の優先順位を正しく認識し行動できる子

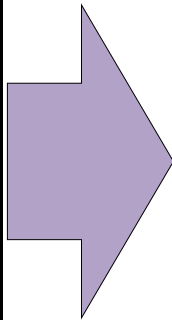
R6学校教育アテンション調査より

令和7年
今年の漢字
『輝』

「一人一人の実績が輝く1年にしたい。」「自分を磨いて輝く1年にしたい。その先に輝く未来が待っている。」
各種活動に目標をもち主体的に取り組むことにより、子ども一人一人がキラキラと輝く「みんなが主役」の学校を目指したい。

教育目標

自分やふふのさに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども
・自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども ・たくましい子ども



<目指す学校像>

- 夢や目標をもって自己実現できる学校
- 子ども一人一人を大切に学校
- 安心安全で信頼できる学校
- 地域とともに歩む学校
- ・ いい学校は、いい地域をつくり
いい地域は、いい学校をつくる

<目指す児童の姿>

- 自ら考え、ともに学び合い、共に高め合う子ども
- 相手の立場に立って考え行動できる優しさと強さをもつ子ども
- 健康な心と身体づくりを目指し、主体的に実践できる子ども

<目指す教師の姿> ～質の高い教育力のある教職員集団～

- ・ 子どもと共に考え、悩み、行動し、学ぶ「子ども主役で考える」教師
- ・ 自らの職務に誇りとやりがいを持ち、自主性、主体性あふれる教師
- ・ 児童や保護者、同僚、地域からの信頼感あふれる教師

重点実践事項		重点実践事項		重点実践事項	
重点目標		重点目標		重点目標	
・自ら学ぶ子ども		・心豊かな子ども		・たくましい子ども	
主体的に学び、学んだことを活用し、表現できる子ども		互いを認め合い、共に高め合う子ども		健康な生活へのめあてをもち、主体的に実践できる子ども	
1 基礎的な学力の向上 ① 具体的な体験を伴う学習を通して言語能力(聞く・読む・話す・語彙の獲得)、数・量感覚の育成 ② 「自己マネジメントカード」を活用した家庭学習と読書習慣の確立、家庭との連携した取組の工夫 ③ 朝の時間や「チャレンジタイム」を活用した基礎学力の定着と向上		1 自他のよさを認め合う道徳教育の充実 ① 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える道徳科の授業の充実(「B親切、思いやり」「A努力と強い意志」) ② 自分の考えを表現することや多様さを互いに認め合い、高め合う態度を育成する取組の工夫 2 一人一人のキャリア形成と、自己実現を図る特別活動等の充実 ① 希望や目標の実現に向けて、日常生活をよりよくしようとする態度の育成 ② 学校や学級での集団活動に主体的に参画しようとする態度の育成 ③ ふるさとへの理解を深め、ふるさとへの愛着・愛情を高める取組の工夫(特別活動・総合的な学習・各教科等) 3 一人一人を大切に生きた生徒指導の充実 ① 人との関わりを大切に生きた活動の工夫(「ふれあいタイム」等) ② 自己決定の場と活躍の場の意図的設定による自己有用感の体感 ③ 自立心や心の強さを育む日常的指導と家庭や地域との連携		1 体力・運動能力の向上と日常化に向けた指導の充実 ① 各学年の体力の実態に応じた指導計画の作成及び「運動身体づくりプログラム」の重点の実践(筋力、持久力、瞬発力) ② 業間(玉つ子スポーツタイム)、昼休みに体を動かして遊ぶことができる時間と環境の充実 ③ 体育科における学習カードの効果的な活用と校内記録会の設定 2 健康な生活に向けた健康マネジメント力の育成 ① 健康的な生活習慣(メディア、睡眠、運動、朝食、歯磨き)に関する自己管理能力の育成 ② 朝食調べ等の家庭との連携の充実 ③ 感染症予防への主体的な取組 3 自分や他者の命を守る教育の実践 ① 保護者や関係機関との連携による命を守る指導及び実効性のある訓練(交通安全、避難訓練、防犯教室、引渡し訓練等)の工夫・改善 ② 「防災教育」「放射線教育」に対する理解を深める系統的指導(防災教育・ふくしま放射線教育指導資料・出前講座等の活用) ③ 交通ルールの継続的な確認と遵守	
① 全国学力調査・NRTの平均偏差値全国平均値 ② 単元テストや独自テストによる平均値向上 ③ 家庭学習「質」の向上・「時間」の増加 (自主学習ノート・自己マネジメントカード) ④ 読書における自己目標の達成		① 心のこもったあいさつや適切な言葉遣いのできる児童の増加 ② QUアンケート結果の向上 ③ いじめ見逃しゼロ(「いじめ」解消100%) ④ 不登校児童及び保護者との密な関係づくり ⑤ ふるさに愛着・愛情をもつ児童の増加(学校評価アンケート)		① 新体力テスト AB群の増加、DE群の減少 ② 肥満傾向児童の減少 ③ 体育・外遊びに関する学校評価アンケート結果の向上 ④ 保護者及び関係機関と連携した体制づくりの強化 ⑤ 交通事故「0」の継続	

3つの重点実践事項を推進するための基盤づくり

- 児童相互並びに児童と教師の信頼関係づくり：互いに認め合える人間関係づくり・Q・Uの効果的活用
- 家庭・地域・関係機関との連携：・おおたまた学園(幼小中)の交流・行政・企業等との連携・地域学校協働活動事業の有効活用・PTA活動の充実・HP等による情報発信の充実・CS委員会との連携
- 望ましい学級のルールやマナーの共有(児童相互並びに児童と教師)
- 生徒指導の充実：・教育相談、個別面談等の充実・生徒指導の機能を生かした授業実践(自己肯定感醸成につなげる)・人権意識、規律意識の育成・「あいさつ」「めあてを守る」日常実践の徹底・ボランティアの協力・SC、SSWとの連携
- 特別支援教育の充実：・個の実態とニーズに応じた特別支援教育の推進(指導力向上のための校内研修の充実、校内支援体制の整備、インクルーシブ教育の推進、SC・SSW・関係機関との連携)

【大玉中学校】

所 在 大玉村玉井字的場93

生徒数 263名

校長 久保寺 徹 教頭 阿部 仁

昭 和 22 年 4 月	玉井村立玉井中学校設立認可・大山村立大山中学校設立認可
昭 和 30 年 3 月	町村合併により大玉村立玉井中学校と改称・同大玉村立大山中学校と改称
昭 和 49 年 6 月	大玉村立大玉中学校統合設立認可
昭 和 50 年 3 月	第1期工事(東校舎2階)完成・玉井村立玉井中学並びに大山中学校廃校
昭 和 50 年 4 月	大玉村立大玉中学校開校玉井分室、大山分室発足
昭 和 51 年 1 月	第2期工事(西校舎3階完成)完成
昭 和 51 年 3 月	玉井分室・大山分室を廃止
昭 和 51 年 4 月	大玉村玉井字的場93番地へ校舎移転
昭 和 51 年 7 月	プール(8コース)完成
昭 和 51 年 11 月	体育館(40×27m)完成
昭 和 52 年 4 月	校庭用具室完成
昭 和 53 年 3 月	自転車置場完成
昭 和 54 年 4 月	野球バックネット・フェンス完成
昭 和 56 年 5 月	機械警備開始
昭 和 56 年 6 月	テニスコート3面完成
昭 和 62 年 3 月	相撲場完成
昭 和 63 年 9 月	校門竣工(62年卒業生・歴代校長・PTA会長寄贈)
平 成 1 年 4 月	武道館落成
平 成 5 年 10 月	夜間照明灯6基完成・県学校図書館教育研究大会大玉大会開催
平 成 7 年 10 月	創立20周年記念式典
平 成 8 年 11 月	コンピュータ室改装、コンピュータ42台更新, LANシステム導入
平 成 11 年 3 月	大規模改造耐震補強工事完了(第1期)
平 成 12 年 12 月	大規模改造耐震補強工事完了(第2期)
平 成 13 年 3 月	屋外水泳プール完成
平 成 13 年 9 月	地域イントラネット基盤整備事業
	光ファイバーケーブルLANシステム導入
平 成 13 年 12 月	大玉村財務会計コンピュータシステム導入
平 成 14 年 1 月	教育用パソコン更新
平 成 14 年 8 月	自転車小屋改装
平 成 15 年 3 月	体育館スクリーン設置
平 成 16 年 4 月	県教委指定「うつくしまっ子すこやか事業」(～H18)
平 成 16 年 10 月	創立30周年記念式典
平 成 17 年 11 月	性教育公開授業研究会
平 成 18 年 11 月	「うつくしまっ子すこやか事業」性教育公開授業研究会
平 成 20 年 5 月	教育用パソコン更新
平 成 20 年 11 月	屋外トイレ完成
平 成 21 年 9 月	公共下水道接続完了
平 成 22 年 5 月	動画配信システム導入、動画配信用・学習用・教師用コンピュータ更新
平 成 22 年 6 月	地上デジタル放送対応テレビ・電子黒板導入
平 成 23 年 3 月	東日本大震災 東京電力福島第一原子力発電所事故発生
平 成 23 年 5 月	放射線汚染校庭表土除去工事完了

平成 23 年 8 月	普通教室、特別教室等エアコン設置
平成 24 年 3 月	校庭暗渠排水工事完了
平成 24 年 8 月	太陽光発電設備設置工事完了
平成 25 年 3 月	体育館耐震改修工事完了(新築)
平成 25 年 3 月	防球ネット・バックネット設置工事完了
平成 25 年 5 月	教育用コンピュータ更新
平成 25 年 11 月	武道館雪よけ屋根設置工事完了
平成 25 年 12 月	武道館雪止め設置工事完了
平成 26 年 12 月	人権教育開発事業「福島県人権教育推進協議会」及び「おおたま学園公開授業研究会」
平成 26 年 12 月	テニスコートフェンス張替工事完了
平成 26 年 12 月	現場保管汚染土壌移設工事完了
平成 27 年 1 月	校庭覆土工事完了
平成 27 年 3 月	校庭防塵工事完了
平成 27 年 8 月	西校舎2階男子トイレブース改修工事完了
平成 27 年 10 月	創立40周年記念事業 記念式典 記念講演 記念誌発行
平成 27 年 11 月	人権教育総合推進事業「おおたま学園公開授業研究会」(第2年次)
平成 27 年 12 月	玄関ドア改修工事完了
平成 28 年 9 月	オープンスクール
平成 29 年 2 月	台湾大竹国民中學来校
平成 29 年 2 月	美術室・音楽室照明LED化工事完了
平成 29 年 3 月	防犯カメラ設置
平成 29 年 12 月	台湾大竹国民中學と姉妹校協定締結
平成 30 年 8 月	教育用コンピュータ更新
平成 31 年 2 月	台湾大竹国民中學来校
令和 2 年 3 月	トイレ改修(洋式化)工事完了
令和 2 年 3 月	校務用コンピュータ更新
令和 3 年 3 月	武道館トイレ改修(洋式化)工事完了
令和 3 年 3 月	Wi-Fi 設置工事完了(GIGAスクール)
令和 3 年 4 月	1人1台端末(iPad)導入(GIGAスクール)
令和 3 年 4 月	台湾大竹国民中學とのオンライン交流(1回目)
令和 3 年 10 月	台湾大竹国民中學とのオンライン交流(2回目)
令和 5 年 2 月	台湾大竹国民中學とのオンライン交流
令和 5 年 4 月	次世代のためのメディアリテラシー育成事業における情報モラル教育研究校
令和 5 年 12 月	大玉村海外交流事業「友好の翼」台湾研修(台湾大竹国民中學との現地交流)
令和 6 年 6 月	台湾大竹国民中學来校
令和 6 年 12 月	大玉村海外交流事業「友好の翼」台湾研修(台湾大竹国民中學との現地交流)



教育目標

自学：意欲をもって学ぶ生徒

共栄：認め合い高め合う生徒

自鍛：自ら心身を鍛える生徒

目指す生徒像

◎学ぶ習慣を身に付け、主体的に学習に取り組む生徒

◎自他を思いやり、強い意志でやり抜く生徒

◎健康・安全に心がけ、活力ある生活を送ることができる生徒

目指す学校像

楽しい学校

わかる・できるの授業をベースに、魅力と必要性の高い学校で、生徒が自己有用感を感じ、教職員がやりがいを感じられる学校

＜生徒の願い＞

- 楽しく学校生活を送りたい
- 認められたい（自己有用感）
- 授業内容がわかる・できるようになって学力を伸ばしたい

＜保護者の願い＞

- 学習意欲を高め学力を向上させたい
- 基本的な生活習慣を身に付けさせたい
- メディアの使用について学ばせたい

学校経営の基本方針

- ◆ 自ら進んで行動できる生徒の育成 → 自主自律・自己マネジメント力
- ◆ 生徒が主役となる教育 → 生徒の手で創り上げる学校（自己有用感）
- ◆ 生徒自身がもつ良さを見つけ、それを伸ばす教育 → 多様性への対応
- ◆ 大玉村、大玉中の良さを実感させ、所属感を高めることで、何事にも自信をもって行動できる生徒の育成 → 大玉プライド

大玉ならではの教育

- 幼小中の連携…おおたま学園の積極的な活用
- 地域との協働…おおたま学園コミュニティ・スクール、大玉村地域学校協働本部、PTAの積極的な活用
- 地域理解と地域貢献…総合的な学習の時間の充実（SDGsとの関連）

「夢を育てる教育」おおたまに学び、世界とつながる人間の育成

＜教員の覚悟＞

『学校の変革』

「挑戦者であれ」何事にもチャレンジしようとする教員（マンネリからの脱却）

『教員のプロ意識』

教員のプロとしての自覚とプライド。プロとしてやるべきこと。プロだからやってはならないこと。プライドをもつからこそ進化し（学び）続けること。

令和7年度 重点事項

知

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図ります。

- ① 自ら進んで学習に取り組む意欲の醸成
 - ・ 学び方の指導の充実
 - ・ スケジュール帳の活用による自己マネジメント力の育成
 - ・ ショートスパン（各単元ごと）のまとめや習熟度を重視
- ② 「できる」を実感できる授業の構築
 - ・ ICTの活用による「わかる」時間の短縮
 - ・ 「できる」を家庭学習にせず、授業内で味わわせる工夫
- ③ 考えることの重視
 - ・ すべてを教えてしまうのではなく考えることを重視した教育
 - ・ ICTの活用による考える時間の確保
- ④ 体験的学習を取り入れた授業の推進
 - ・ 外部講師の積極的な活用

＜実践目標＞

- 現状の学力を確実に上げる手立ての明確化（国数英理社）
- ワンランク上の質の高い技能教科の授業実践（音楽体育技芸）
- 全国学テ、ふくしま学調による課題の明確化
- NRTにおける全国平均との比較
- 楽しいと思わせる授業の構築

徳

地域や社会とつながり、多様な人々と心の交流を通して、豊かな人間性や社会性を育みます。

- ① 自主自律と自己マネジメント力
 - ・ 自ら進んで行動できる生徒の育成
- ② 大玉プライドの意識化
 - ・ 所属感を高めることで、何事にも自信をもって行動できる生徒の育成
- ③ 地域に学び、地域と学ぶ、多様な学習活動の推進
 - ・ 総合的な学習の時間の充実
 - ・ 生徒会活動の充実（地域貢献）
- ④ 自他のよさを認め合う人権教育、道徳教育の推進
 - ・ 人との関わり方について学ばせ、より良い集団づくりを積極的に行うことのできる生徒の育成
- ⑤ 教育相談の充実
 - ・ 本音で話せる環境の醸成
 - ・ カウンセリングマインドをもった相談活動の実践

＜実践目標＞

- 充実した学級経営と、方向性を明確にした学年経営
- 教育相談による生徒理解の充実（不登校やいじめの対応と未然防止）
- 総合的な学習の時間の充実（SDGs、地域貢献）
- 大玉プライドと自己肯定感、自己有用感の醸成

体

望ましい生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組みます。

- ① 健康マネジメント力の育成
 - ・ 基本的な生活習慣の確立
 - ・ 自分手帳の活用
 - ・ 朝食摂取率の向上
 - ・ 肥満に対する個別指導と支援
 - ・ う歯治療率の向上
 - ・ 各種講話の充実（食育、性教育等）
- ② 体力向上への取組
 - ・ 新体力テストの結果に基づく体力向上プログラムの実践
 - ・ 運動・スポーツ好きを育てる取組
 - ・ 「する・みる・支える・知る」というスポーツとの関わり方の意識化
- ③ 命を守る教育の実践
 - ・ 防災教育、安全教育の強化
 - ・ 避難訓練、交通安全教室の充実
- ④ デジタル・シティズンシップの醸成
 - ・ ネットリテラシーの向上

＜実践目標＞

- 朝食摂取率 up
- う歯治療率 up
- 肥満率 down
- 新体力テスト平均 up
- ※ 目標達成には家庭との連携が必須
個別指導や個別相談の充実
おおたま学園CS、PTAの協力
- デジタル・シティズンシップの浸透

糸

社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努めます。

- ① 家庭・地域・関係機関との連携強化
 - ・ おおたま学園の取組を生かした幼・小・中の一貫性のある教育の推進
 - ・ 地域学校協働本部を活用した地域人材の学校参画推進
 - ・ PTA活動と教育活動がコラボした取組の展開
- ② 積極的な情報発信
 - ・ 学校だより、学年だよりの発行
 - ・ ホームページやInstagramによる情報発信

響育・共育・強育・郷育

12. 令和7年度 社会教育事業等計画

区分	事業名	対象	時期	事業内容
			場所	
家庭教育	子育て講座	園児保護者	4～3月	参観日等を活用した子育て講座 (各幼稚園1回)
		児童保護者	4～3月	参観日等を活用した子育て講座 (各小学校1回)
		生徒保護者	4～3月	参観日等を活用した子育て講座 (中学校1回)
	子育て支援交流事業	幼児 (年中・年長)	9月	園児が楽しめる人形劇の上演 ○各幼稚園1回開催
			改善センター	
青少年教育	わんぱく広場	小学3年生 (希望者)	6～12月	様々な体験や活動を通じて、社会性、創造性、主体性、協調性のある健全な子どもの育成
			改善センター等	
	おおたまっ子学び舎塾 (地域学校協働活動)	小学生 (希望者)	未定	外部講師を招き、子どもたちの学習サポートを実施
			改善センター	
	中3生おおたま未来塾 (地域学校協働活動)	中学3年生 (希望者)	8～12月	共に学ぶおおたまの教育サポート事業として、大学生講師による土曜日・長期休業期間の集中学習会
			改善センター	
	S.E support net (生涯学習ボランティア)	高校生等 (希望者)	通年	社会教育事業ボランティア活動、レクリエーション活動、各種学習講座 活動回数：5回程度
			改善センター等	
	2025大玉村二十歳を祝う会 (2025おおたま二十歳のつどい)	20歳の 新成人者	1/11(日)	第1部は村主催の祝う会、第2部は成人者主体の二十歳のつどい (実行委員会方式)
改善センター				
成人教育	ふれあいセミナー	村内在住の成人で構成するグループ	通年	各グループの自主学習を支援 講師謝礼1回6,000円(2回まで) 一般教養、健康講座、プール・テニスコート利用の促進等
			各地区集会所等	
	おおたま生き粋大学	55歳以上の村民 (希望者)	6～12月	高齢者学級(教養講座、健康講座、スポーツ等) 地域・役場各課との連携により幅広く教養を学ぶ。
			改善センター	
	おおたま合奏部	一般	4～3月	音楽(楽器演奏)を学生時代までで終わった方や現在も現役でやっているが披露する場所がない方などが一緒に学べる大人のための合奏部を開講
			改善センター	

区分	事業名	対象	時期 場所	事業内容
成人教育	生きがいセミナー ライフ探検隊	一般	6～3月	村民のニーズを基に様々な趣味・志向の幅を広げるための講座を開催。
			改善センター	
図書教育	おはなし会 年中行事再現	小学生以下 と保護者	毎月第2土曜日	絵本の読み聞かせを中心に本の紹介、パネルシアター、紙芝居、紙工作など出張おはなし会の開催
			ふるさとホール	
	おはなし ボランティア 育成事業	一般	通年	図書ボランティアの育成 読み聞かせボランティアの養成講座
			ふるさとホール	
	移動図書館運行 (あだたら号)	児童	毎月	あだたら号の運行により大山小学校及び玉井小学校において図書の貸出
			両小学校	
	読書活動推進事業 (子ども読書活動 推進事業)	園児 児童 生徒	通年	令和4年度より新たに策定された「第二次大玉村子ども読書活動推進計画」に基づき、読書の推進を図る。引き続き、学校図書館の充実のため、各小・中学校へサポートティーチャー(読書)を各1名配置、学校司書1名の巡回により推進を図る。
世代間 交流事業	幼稚園児と祖父母の 交流会	幼稚園児と 高齢者	10月	祖父母との交流 祖父母参観日に実施のため、幼稚園行事として実施予定
			各幼稚園	
人材活用	地域学校協働本部	村内全域	通年	地域コーディネーターを配置。地域と学校が連携・協働し、より幅広い地域人材の協力を得、子どもたちの学習環境の充実と地域活性化を目指して、組織づくりと継続的な活動の支援
			通年	
	学校支援活動 (地域学校協働活動)	登録ボラン ティア	幼小中	学校支援コーディネーターの配置。学校の求めに応じてボランティアを学校に派遣することで、子どもたちの学習活動を援助し、地域全体で継続的な学校の支援の実施

区分	事業名	対象	時期	事業内容
			場所	
人材活用	放課後子ども教室 (地域学校協働活動)	4～6年生 登録ボランティア	5月～3月	放課後子ども教室コーディネーターの配置。週1回 4～6年生の児童に体験学習の機会と異学年交流の場を提供するため、活動サポーターとしてボランティアを配置
			改善センター 大山公民館	
	家庭教育支援活動 (地域学校協働活動)	村内全域	通年	家庭教育支援コーディネーターを配置。村内で行っている親子参加型行事やイベントを通じて、子どもや保護者のコミュニティの場を提供する。また、家庭教育支援チームによる会報作成により保護者への情報提供を行う
			村内	
生涯学習課	文化祭	一般村民	10/30(木) ～11/4(火)	実行委員会方式による芸術・文化活動の展示や発表の機会と、鑑賞の機会を提供
			改善センター等	
	芸能祭	一般村民	6/15(日)	文化団体連絡協議会会員の学習成果発表
	文化のつどい	一般村民 村外在住者	通年	実行委員会方式による講演会等の開催 1/26(日) 三遊亭兼好独演会
			改善センター等	
生涯学習課	教育委員会 パソコン・スマホ 相談	一般村民	通年	完全予約制。ワード・エクセル・インターネット・メールなどの初歩的な疑問等の相談
			改善センター	

令和7年度 社会教育委員関係行事予定

内 容	期 日	会 場 等
安達地方社会教育委員連絡協議会総会	6/27(金)	総会・研修会 会場：二本松市
福島県社会教育研究集会	8/27(水)	会場：二本松市
東北地区社会教育研究集会	10/30.31	会場：岩手県盛岡市

13. 令和7年度 文化振興事業計画

事業名	対象	時期	事業内容
文化財保護事業	指定・未指定の文化財「おおたま遺産」	通年	○大玉村歴史文化基本構想において、本村に存在する指定・未指定の文化財を「おおたま遺産」として捉えることとした。この「おおたま遺産」を幅広く捉えて的確に把握し、総合的に保護保存・活用するための構想方針に従い事業を進める。 ・文化財保護審議会の開催 ・文化財調査委員会の開催 ・緊急発掘調査（確認・試掘調査等） ・国・県・村指定文化財保護管理事業 ・文化財整備・活用事業 ・文化財の指定・登録の推進 ・おおたま遺産の調査研究
文化財記録保存事務事業	村内資料	通年	○村内の貴重な民俗芸能・風俗慣習等の在り方について文化財調査員等の協力を得て聴き取り調査等を行い記録保存を進める。また、伝統技術も後世に継承するために記録保存を進める。 ・文化財調査員による我が家の年中行事や風俗慣習等の調査
無形文化財・年中行事伝承事業	一般村民	通年	○村内の無形文化財や伝統工芸技術保持者の後継者育成を図る。 ○風俗慣習伝承のため子どもから大人までを対象とした年中行事再現事業を実施し、伝統文化への理解と認識を深める。 ・年中行事再現事業【年7回】 ○民俗芸能の継承・発展を図るため、村内外の民俗芸能保存団体による民俗芸能大会の定期的開催 ・第5回大玉村民俗芸能大会開催(2026/2/1) ○民俗芸能の継承のため、授業での取り組みを奨励する。 ・「神原田神社十二神楽」（大山小） ・「本揃の田植踊」（玉井小）

事業名	対象	時期	事業内容
あだたらふるさとホール運営事業	一般村民	年2回	○郷土の歴史及び民俗等に関する資料を収集、保管、展示し、村民の教養の向上と文化の振興を図るため、村の歴史や文化に係る企画展や、時節や社会に添ったテーマで特別展開催する。 ・ふるさと歴史講演会【5月・11月】 ○あだたらふるさとホールの機能の維持・向上を図るとともに、野内与吉氏の功績展示を行う。 ・「マチュピチュ村を作った野内与吉」コーナー設置
歴史と文化を活かした村づくり推進事業	一般村民	通年	○住民の郷土意識の醸成を図るため、『大玉村歴史文化基本構想』・『おおたま学』を活かしてむらづくりを推進する。 ○『おおたま学』やあだたらふるさとホールでの様々な体験活動を通して、子どもから一般まで村の歴史・文化・自然など郷土の魅力を学ぶ機会の拡充に努める。 ○あだたらふるさとホールを文化・情報の発信拠点として整備・充実に努める。 ・学校教育・社会教育での「おおたま学」の活用 ・あだたらふるさとホールにおいて県内の展覧会・講演会等のチラシの配架掲示
ふるさとコンサート公演会事業 (プチミュージアム)	一般村民	2回程度	○ふるさとホールの古民家スペースを主な会場とした「おおたまプチミュージアムの会」による、ミニコンサート等の開催を支援する。
文化のつどい事業 (再掲)	大玉村 本宮市 二本松市 の村民・市民対象	1回	○幅広い年齢層の村民が文化・芸術に触れる機会の拡充を図るための、文化のつどい実行委員会による講演会や音楽会等の開催を支援する。 ・三遊亭兼好独演会

事業名	対象	時期	事業内容
文化祭事業 (再掲)	一般村民	10/30(木) ～11/4(火)	○各種団体が参画する実行委員会方式の文化祭開催により、多くの村民に文化・芸術活動の発表や鑑賞の機会を提供します。さらに、多くの団体の協力を得て展示や催事など開催内容を充実し、さらなる発展を図る。
		改善センター等	
文化・芸術活動の 情報発信	一般村民	通年	○文化・芸術活動について、公共施設や広報紙、村ホームページ等を通して広く村民への情報提供に努める。 ・あだたらふるさとホールにおいて県内の展覧会・講演会等のチラシの配架掲示

14. 令和7年度 社会体育事業計画

事業名	対象	時期	事業内容
おおたま スポーツクラブ	全村民	4月～	常時会員を募集し、各種のスポーツ教室の開催や、サークル活動を継続していく。
		村内・外	
村民登山	全村民	5/18(日)	平成28年度に整備された登山道による、名倉山登山を実施。
		村内・外	
小学校水泳大会	両小学校 6年生	7/23(水)	自由形、平泳ぎ、背泳ぎの3泳法で、距離は25mと50m。また、リレー競技も実施。
		村民プール	
第37回 あだたら健康 マラソン大会	小・中 高・一般	未定	保健センター周辺コース 2km・3km・5kmのコースで実施。 実行委員会方式で実施。
		村内	
ふくしま駅伝	中学生以上	11/16(日)	実行委員会で選手を募集し、育成強化を図る。大会出場と共に、応援体制を組んで大玉村の選手を応援する。 実行委員会方式で実施。
		白河～福島	
雪上体育	村内 小学生	1～2月	小学生クロスカントリースキーの体験。
		村内・外	

令和7年度 スポーツ推進委員関係行事予定

内 容	期 日	会 場
安達地方スポーツ推進委員連絡協議会総会	6/13(金)	二本松市
東北地区スポーツ推進委員協議会総会	7月11.12日	福島県田村市
大玉村スポーツ推進委員会研修会	未定	未定

その他の体育関係事業【参考】

1. 大玉村スポーツ協会関係事業

事業名	期 日	会 場	対 象
第34回ゲートボール大会	5/16(金)	村民屋内運動場	ゲートボール協会員
夏季野球大会	8/15(金)	村民運動場・大玉中	区対抗
スポーツ交流会	未定	村民体育館	一般

2. 大玉村スポーツ少年団本部関係事業

事業名	期 日	会 場	対 象
本部役員情報交換会	5～6月	未定	本部役員
第37回大玉村長杯 スポーツ少年団剣道大会	8月頃	大玉中学校武道館	郡内登録団
第36回大玉村長杯 スポーツ少年団野球大会	9月頃	村民運動場	県北登録団
第39回大玉村長杯 スポーツ少年団サッカー大会	9月20日(土) ～21日(日) 〈予定〉	村民運動場	登録団
おおたまコミュニティフェスタ	11/1(土)	改善センター	

3. おおたまスポーツクラブ関係事業

事業名		期 日	時 間	会 場
イベント	おおたまスポーツ教室	未定	9:00～12:00	村民体育館
	夏山トレッキング	8/9(土)	7:00～14:30	安達太良山
	おおたまコミュニティフェスタ	11/1(土)	9:30～15:00	改善センター
サークル活動	ヨガ&ストレッチ	毎週月曜	13:30～14:30	改善センター
	ソフトテニス	毎週月曜	19:00～21:00	村民テニスコート
	太極拳	毎週月曜	19:00～20:30	改善センター
	硬式テニス	毎週水曜	19:00～21:00	村民テニスコート
	卓球	毎週水曜	19:00～21:00	村民体育館
	水中運動	毎週木曜	19:00～20:30	村民プール
	スポーツウエルネス吹矢	第2・4木曜	13:30～15:00	改善センター
	そば打ち	第3木曜	16:00～18:30	改善センター
	フットサル	毎週金曜	19:00～21:30	村民体育館
	ソフトバレー	毎週金曜	19:30～21:30	村民体育館
	バドミントン	毎週火曜	19:00～21:30	大玉中学校
	ゴルフ（コンペ）	年8回 〈4～11月〉	8:00～（予定）	大玉カントリークラブ
	ランニングクラブ	毎週火・日曜	(火) 19:00～21:00 (日) 9:00～11:00	大玉中学校 大山小学校
	水泳教室	毎週土曜	10:00～11:30	村民プール
	調理教室	月1回土曜日	13:30～15:00	改善センター

15. 社会教育施設・社会体育施設等概要

(1) 社会教育施設等

	大玉村農村環境改善センター (大玉村教育委員会生涯学習課)			大山公民館		
所 在	大玉村玉井字西庵 1 8 3			大玉村大山字大江田中37-1		
開 館	昭和57年6月			昭和55年4月		
構 造	鉄筋コンクリート 2 階建			鉄骨 2 階建		
面 積	1 , 5 9 6 . 7 6 m ²			4 9 7 . 2 0 m ²		
利用方法等	《使用時間》 8 : 3 0 ~ 2 2 : 0 0 ■休館日■ 年末年始 《使用料》 …… (前納)			《使用時間》 9 : 0 0 ~ 2 2 : 0 0 ■休館日■ 年末年始 《使用料》 …… (前納)		
	大 研 修 室	20,000円	(8:30~17:00)	ホ ー ル	4,000円	(9:00~17:00)
		30,000円	(17:00~22:00)		2,500円	(17:00~22:00)
	調 理 実 習 室	8,000円	(8:30~17:00)	日 本 間	4,000円	(9:00~17:00)
		10,000円	(17:00~22:00)		2,500円	(17:00~22:00)
	そ の 他 の 室 (1 室につき)	4,000円	(8:30~17:00)	調 理 室	3,000円	(9:00~17:00)
		5,000円	(17:00~22:00)		2,000円	(17:00~22:00)
	※昼間使用で、4時間以内の場合は 1 / 2 の額 ※使用料の免除あり			そ の 他 の 室	3,000円	(9:00~17:00)
				(1 室につき)	2,000円	(17:00~22:00)
			※使用料の免除あり ※昼間使用の場合で半日使用の場合は、1 / 2 の額			
《使用方法》 使用する日の 7 日前までに申請書提出						
連 絡 先	大玉村農村環境改善センター TEL. 4 8 - 3 1 3 9 FAX. 4 8 - 3 4 9 3			大山公民館 TEL. 4 8 - 3 1 3 6 FAX. 4 8 - 4 5 8 5		

	あだたらふるさとホール
所 在	大玉村玉井字西庵 1 8 3
開 館	平成元年4月
構 造	鉄筋コンクリート 2 階建
面 積	6 5 1 . 7 7 m ²
利用方法等	《開館時間》 9 : 3 0 ~ 1 8 : 3 0 入館は 1 8 時まで ■休館日■ 毎週火曜日、年末年始 ※火曜日が祝日の場合は開館し、次の平日が休館 《入館料》 大 人 1 0 0 円 高校生以下 5 0 円 ※村内居住・勤務の方は無料
	《資料館観覧または図書室利用の場合》 当日、受付窓口へ申込んで下さい。
	《研修室等を使用の場合》 使用する日の 5 日前までに申請書を教育委員会へ提出下さい。 (生涯学習課 TEL. 4 8 - 3 1 3 9)
連 絡 先	ふるさとホール TEL. 4 8 - 2 5 6 9 FAX. 4 8 - 4 8 1 0

(2) 社会体育施設

	大玉村民体育館	大玉村民運動場
所 在	大玉村大山字六社山 1 1 - 1	大玉村大山字六社山 6 - 2
開 館 (場)	昭和60年4月	昭和60年4月
規 模	1, 5 7 1 m ²	1 3, 0 0 0 m ² (夜間照明付)
使 用 時 間	8 : 3 0 ~ 2 1 : 3 0	5 : 0 0 ~ 2 1 : 3 0
使 用 料 金	1 時間につき 2, 0 0 0 円 (村内) 3, 0 0 0 円 (村外) ※使用料の免除あり ■休館日■ 年末年始	1 時間につき 5 0 0 円 照明施設 全灯 村内 2, 0 0 0 円 村外 3, 0 0 0 円 半灯 村内 1, 0 0 0 円 村外 1, 5 0 0 円 ※使用料の免除あり 照明使用可能期間 5 月中旬 ~ 1 1 月末日
使 用 方 法	使用する日の 7 日前までに申請書を提出 (使用料前納)	
連 絡 先 及 び 申 込 先	大玉村農村環境改善センター TEL. 4 8 - 3 1 3 9 FAX. 4 8 - 3 4 9 3	

	大玉村民屋内運動場
所 在	大玉村玉井字西庵 1 8 3
開 場	平成28年4月
規 模	1, 1 2 6 m ²
使 用 時 間	8 : 3 0 ~ 2 1 : 3 0
使 用 料 金	1 時間につき 2, 0 0 0 円 (村内) 3, 0 0 0 円 (村外) ※使用料の免除あり ■休館日■ 年末年始
使 用 方 法	使用する日の 7 日前までに申請書を提出 (使用料前納)
連 絡 先 及 び 申 込 先	大玉村農村環境改善センター TEL. 4 8 - 3 1 3 9 FAX. 4 8 - 3 4 9 3

	大玉村民テニスコート			大玉村民プール			
所 在	大玉村玉井字西庵 5 0 - 2			大玉村玉井字西庵 5 0 - 2			
開 場	昭和63年4月			平成元年4月			
規 模	・ 全天候型人工芝コート 3 面 ・ 夜間照明付			・ 温水プール ・ 2 5 m× 1 1 m、 5 コース ・ 深さ40cmの幼児用プール(すべり台付) ・ 室温 8 0 ～ 1 0 0℃の採暖室 ・ 水温は常時 2 8 ～ 2 9℃(一般用)			
使 用 時 間	9 : 0 0 ～ 2 1 : 0 0 ※毎週火曜日は9 : 00～17 : 00 ■休館日■ 年末年始 ※冬期間は、積雪等の状況により 使用できない場合があります。			期 間	曜 日	時 間	
				4/1～6/30	平日	②③	
				〃	土・日・祝日	①②③	
				7/1～8/31	全日	①②③	
				9/1～11/30	平日	②③	
				〃	土・日・祝日	①②③	
				12/1～3/31	平日	②③	
				〃	土・日・祝日	②③	
利 用 料 金		一般	高校生以下		一般	60歳以上	小・中・高校生
	2 時間	3 0 0 円	2 0 0 円	1 回使用	500円	300円	200円
	1 時間	2 0 0 円	1 0 0 円	専用 1 時間	8, 000円		
	専用 2 時間	1, 5 0 0 円		[年間使用券]			
	照明 1 面	5 0 0 円		一般	60歳以上	小・中・高校生	
	※上記は、村内外同一料金 [年間使用券]			15, 000円	10, 000円	6, 000円	
	村内	一般	5, 000円	※家族使用券・半年家族使用券・回数券・冬季券あり ※幼児は無料 ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳 所持者に割引あり なお、詳細はプールまたは教育委員会へお問い合わせください。			
	〃	高校生以下	3, 000円				
	村外	一般	6, 000円				
	〃	高校生以下	4, 000円				
	※半年券あり なお、詳細はプールまたは教育委員会へお問い合わせください。						
使 用 方 法	受付窓口は、村民プール管理室 (村民プール開場時間前・休館時の受付窓口は、改善センター)			受付窓口は、村民プール管理室 (小学校 3 年生以下及び夜間の中学生以下は、保護者同伴)			
連 絡 先 及 び 申 込 先	村民プール管理室 TEL. & FAX. 4 8 - 4 0 8 2						

16. 社会教育関係委員会

(1) 社会教育委員の会

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

氏 名	所 属	氏 名	所 属	氏 名	所 属
久 保 寺 徹	おおたま学園	中 塚 敏 夫	老人クラブ連合会	麻 生 希 美	商工会青年部
八 巻 隆	PTA連絡協議会	舘 下 憲 一	文化団体連絡協議会	佐々木早苗	大玉村婦人会
八 木 田 厚 子	学識経験者	須 藤 綾 子	スポーツ協会	押 山 麻 美	施設利用者
戸 田 千 香 子	大玉村磐青の会	渡 邊 順 子	学識経験者		

(2) 文化財保護審議委員

(任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日)

氏 名	専門分野	氏 名	専門分野
日 下 部 善 己	考 古	佐 藤 研 吾	建 築
杉 原 正 勝	民 俗	鈴 木 俊 行	植 物
武 田 喜 市	民 俗	村 川 友 彦	民 俗
守 谷 早 苗	歴史資料		

(3) 文化財調査委員会

(任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日)

区分	氏 名	区分	氏 名	区分	氏 名
大玉1区	渡 辺 憲 一	大玉7区	武 田 喜 市	大玉13区	杉 原 正 勝
大玉2区	鈴 木 健 司	大玉8区	渡 辺 正 人	大玉14区	安 田 安 夫
大玉3区	柳 田 克 己	大玉9区	根 本 好 一	大玉15区	国 分 豊
大玉4区	佐 藤 博	大玉10区	遠 藤 源 久	大玉16区	鈴 木 正 信
大玉5区	押 山 清 一	大玉11区	菊 地 雅 博		
大玉6区	中 塚 敏 夫	大玉12区	渡 辺 修 一		

(4) スポーツ推進委員会

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

氏 名	担 当 分 野	氏 名	担 当 分 野
斎 藤 徹	野球・登山・歩くスキー	佐 原 孝 男	剣道
武 田 智 道	水泳・スキー・陸上	鈴 木 喜 男	登山・スキー
伊 藤 秋 義	陸上	中 村 伸 太 郎	野球
斎 藤 昇 一	ソフトボール	遠 藤 聡	剣道
大 山 明 美	ソフトテニス	飛 田 悦 子	バレーボール
渡 辺 孝 志	バレーボール	角 田 俊 哉	陸上
押 山 由 衣	陸上・サッカー	渡 辺 勝 典	バスケットボール
菊 地 正 樹	サッカー		

17. 各種団体関係機関

(1) 各種関係機関

No.	団 体 名	氏 名	No.	団 体 名	氏 名
1	大玉村青少年育成村民会議	押 山 利 一	23	玉 井 小 学 校 P T A	喜 古 真 也
2	大玉村社会福祉協議会	武 田 正 男	24	大 玉 中 学 校 P T A	八 巻 隆
3	大 玉 村 婦 人 会	佐々木早苗	25	大玉村スポーツ協会	武 田 伸 一
4	大玉村老人クラブ連合会	中 塚 敏 夫	26	大玉村スポーツ少年団本部	渡 辺 敏 弘
5	大玉村第1なぐら福寿会	佐 原 新 一	27	おおたまスポーツクラブ	斎 藤 徹
6	大玉村第2玉井戸会	三 瓶 賢 一	28	大 玉 村 消 防 団	渡 邊 淳 一
7	大玉村第3さくら会	押 山 幸 一	29	大玉村女性消防協力隊	三 瓶 栄 子
8	大 玉 村 第 5 友 の 会	国 分 初 男	30	本宮地区交通安全協会玉井分会	武 田 宏 幸
9	大玉村第6長生クラブ	中 塚 敏 夫	31	本宮地区交通安全協会大山分会	館 下 憲 一
10	大玉村第11東部福寿会	菊 地 利 勝	32	大玉村交通安全母の会	遠 藤 か お り
11	大 玉 村 第 12 絆 会	渡 辺 修 一	33	玉 井 地 区 防 犯 協 会	菅 野 武 雄
12	大 玉 村 第 13 喜 楽 会	小 沼 弘	34	大 山 防 犯 協 力 会	佐 藤 博 元
13	大玉村第14いきいきクラブ	渡 辺 政 司	35	J Aふくしま未来大玉支店	尾 形 喜 好
14	大玉村第15五輪クラブ	国 分 豊	36	大 玉 村 商 工 会	斎 藤 泉
15	大玉村第16百笑クラブ	佐 藤 良 平	37	大玉村赤十字奉仕団	武 田 ひ と み
16	大玉村文化団体連絡協議会	館 下 憲 一	38	大玉村アマチュア無線赤十字奉仕団	渡 辺 善 春
17	大 山 小 学 校	澤 藤 晃 治	39	大 玉 村 磐 青 の 会	戸 田 千 香 子
18	玉 井 小 学 校	五十嵐洋之	40	大 玉 郵 便 局	三 瓶 英 男
19	大 玉 中 学 校	久 保 寺 徹	41	岩代大山郵便局	高 島 邦 雄
20	大山幼稚園 P T A	二 瓶 秀 樹	42	大 玉 駐 在 所	三 森 重 明
21	玉井幼稚園 P T A	菅 野 幸 太	43	大 玉 駐 在 所	福 田 裕 一
22	大山小学校 P T A	安 齋 公 規	44	玉 井 財 産 区	武 田 憲 一

(2) 文化団体

No.	団 体 名	氏 名	No.	団 体 名	氏 名
1	大 玉 民 謡 愛 好 会	鈴 木 哲 夫	16	J A スポーツ民謡会	後 藤 敏 江
2	鈴 孝 民 謡 会	鈴 木 孝 雄	17	サーチホアヘレ	松 本 紀 代 子
3	大玉村スポーツ民謡会	三 瓶 ユ リ 子	18	大玉・岳Karaoke倶楽部	国 分 初 男
4	わ か ば 会	島 田 仁 子	19	カラオケ夢クラブ	武 田 勝 利
5	大 玉 親 菊 会	平 野 弘	20	Yosakoi 大 玉	渡 邊 寿 子
6	本揃田植踊り保存会	橋 本 富 夫	21	玉井三区太鼓台保存会	遠 藤 新 一
7	神原田神社十二神楽保存会	大 内 謙 一	22	宝 寿 舞 踊 会	舘 下 良 子
8	大玉二区太鼓台保存会	三 瓶 賢 一	23	大玉村川柳サークル	橋 本 美 津 江
9	大 住 書 道	渡 辺 恭 子	24	コ ー ル 大 玉	渡 邊 順 子
10	さ ゆ り 舞 踊 会	三 瓶 ユ リ 子	25	玉 井 生 花 ク ラ ブ	伊 藤 正 子
11	鈴孝カラオケ愛好会	青 木 秋 男	26	華 の 会	官 野 邦 子
12	サーチプルメリア	浅 和 文 子	27	大玉村絵手紙愛好会	国 分 玲 子
13	やまびこ琴の会	国 分 秀 子			
14	あ だ た ら HEROES	舘 下 憲 一			
15	神道流吟詠会あだたら支部	橋 本 眞 治			

(3) スポーツ協会役員

役職名	氏 名	所 属 団 体	役職名	氏 名	所 属 団 体
名誉会長	押 山 利 一	大玉村長	監事	渡 辺 郁 美	Ohtama愛球会
会長	武 田 伸 一	大玉村野球協会	〃	菊 地 美 和	サニーサイドアップテニスクラブ
副会長	中 村 伸 太 郎	大玉村スポーツ少年団本部	〃	作 田 純 一	大玉剣友会
〃	須 藤 綾 子	大玉剣友会	事務局	田 辺 将 裕	生涯学習課
事務局	菊 地 孝 宏	生涯学習課	事務局	国 分 智 明	生涯学習課

(4) スポーツ協会加盟団体

No.	団 体 名	氏 名	No.	団体名	氏 名
1	大 玉 村 野 球 協 会	斎 藤 徹	6	大玉村ゲートボール協会	遠 藤 博 元
2	大 玉 剣 友 会	佐 原 孝 男	7	大玉村グラウンドゴルフ協会	鈴 木 浩 一
3	大 玉 村 ス ポ ー ツ 民 踊 会	三 瓶 ユ リ 子	8	大玉ジュニア硬式テニスクラブ	齋 藤 雄 一 郎
4	大玉村スポーツ少年団本部	渡 辺 敏 弘	9	Ohtama 愛 球 会	古 川 沙 織
5	サニーサイドアップテニスクラブ	国 分 郁 夫	10	セブンテン野球クラブ	佐 藤 善 孝

(5) 令和7年度大玉村公立学校における学校運営協議会委員名簿
(おおたま学園コミュニティ・スクール委員会名簿)

No.	区 分	氏 名	No.	区 分	氏 名
1	大 玉 中 推 薦	浅 和 博 栄	16	大 山 小 推 薦	矢 吹 吉 信
2	玉 井 幼 推 薦	大 槻 孝 昭	17	大 玉 中 推 薦	八 巻 隆
3	大 山 幼 推 薦	岡 和 佳 子	18	玉 井 小 推 薦	山 口 知 子
4	大 山 小 推 薦	小 川 晴 喜	19	地 域 住 民 (公 募)	吉 田 都
5	玉 井 幼 推 薦	小 沼 初 美	20	商 工 会 青 年 部 推 薦	渡 邊 直 人
6	ス ポ ー ツ 少 年 団 推 薦	菊 地 暢 一	21	おおたま学園学園長 大 玉 中 学 校 長	久 保 寺 徹
7	玉 井 小 推 薦	後 藤 吉 美	22	おおたま学園副学園長 大 山 小 学 校 長	澤 藤 晃 治
8	大 山 幼 推 薦	佐 藤 史 江	23	おおたま学園副学園長 玉 井 小 学 校 長	五 十 嵐 洋 之
9	大 玉 村 区 長 会 推 薦 (副 会 長)	須 藤 五 郎	24	大 山 幼 稚 園 副 園 長	二 瓶 博 子
10	玉 井 幼 推 薦	平 佐 代 子	25	玉 井 幼 稚 園 副 園 長	後 藤 弥 和 子
11	玉 井 小 推 薦	武 田 智 道			
12	大 山 小 推 薦	舘 下 愛 理			
13	大 玉 中 推 薦	田 邊 幸 枝			
14	地 域 お こ し 協 力 隊	飛 田 惟 織			
15	大 山 幼 推 薦	安 田 イ ツ 子			

18. 資料編

◆【歴代村長】

	氏 名	在 任 期 間	
初代	伊 藤 忠 蔵	S30. 5. 17	S34. 5. 10
2代	鈴 木 正 平	S34. 5. 11	S38. 5. 10
3代	伊 藤 忠 蔵	S38. 5. 11	S40. 9. 22
4代	斎 藤 伝 寿	S40. 10. 20	S44. 7. 10
5代	安 田 留 吉	S44. 8. 24	S52. 8. 23
6代	後 藤 一 美	S52. 8. 24	S56. 8. 23
7代	後 藤 二 雄	S56. 8. 24	H 5. 8. 23
8代	浅 和 定 次	H 5. 8. 24	H25. 8. 23
9代	押 山 利 一	H25. 8. 24	

◆【歴代議長】

	氏 名	在 任 期 間	
初代	鈴 木 正 平	S30. 4. 1	S34. 4
2代	高 橋 半 次	S34. 5. 7	S34. 8. 31
3代	斎 藤 伝 寿	S34. 9. 1	S40. 10. 1
4代	内 古 兵 三 郎	S40. 10. 1	S46. 8. 31
5代	木 村 利 見	S46. 9. 1	S48. 7. 20
6代	後 藤 隆 男	S48. 7. 20	S54. 8. 31
7代	渡 邊 正 徳	S54. 9. 1	S62. 8. 31
8代	斎 藤 伝 太 郎	S62. 9. 1	H 5. 6. 23
9代	武 田 和 義	H 5. 6. 24	H 7. 8. 31
10代	菅 野 博	H 7. 9. 1	H15. 8. 31
11代	菅 野 行 雄	H15. 9. 1	H23. 8. 31
12代	佐 藤 悟	H23. 9. 1	H27. 8. 31
13代	遠 藤 義 夫	H27. 9. 1	R 1. 8. 31
14代	菊 地 利 勝	R 1. 9. 1	R 5. 8. 31
15代	押 山 義 則	R 5. 9. 1	

◆【歴代教育長】

No	氏 名	在 任 期 間		No	氏 名	在 任 期 間	
1	渡 辺 慶 治	H11.12.21	S31. 9.30	8	武 田 章	S61.10. 1	H 6. 9.30
2	野 内 與 一	S31.10. 1	S41. 9.30	9	武 田 昭 三	H 6.10. 1	H11.12.21
3	根 本 軍 記	S41.10. 1	S43. 9.30	10	堀 田 恵 一	H12. 4. 3	H18. 3.31
4	遠 藤 隆 三	S43.10. 1	S44. 9.30	11	押 山 利 一	H18. 4. 1	H25. 5.31
5	佐 原 武 夫	S44.10. 1	S46. 9.30	12	佐 藤 吉 郎	H25. 6.11	R 4. 3.31
6	大 内 勤	S46.10. 1	S57. 9.30	13	渡 辺 敏 弘	R 4. 4. 1	
7	岡 田 光 雄	S57.10. 1	S61. 9.30				

◆【歴代教育委員】

No	氏 名	在 任 期 間		No	氏 名	在 任 期 間	
1	渡 邊 民 雄	S31.10. 1	S33. 3.31	26	佐 々 木 市 夫	H 4.10. 1	H 6.12.31
2	野 内 與 一	S31.10. 1	S41. 9.30	27	斎 藤 初 治	H 4.10. 1	H12. 9.30
3	野 内 久	S31.10. 1	S33.10.30	28	渡 邊 幸 子	H 5.10. 1	H17. 9.30
4	渡 邊 金 次 郎	S31.10. 1	S35. 9.30	29	渡 邊 栄 富	H 6.12.21	H18.12.20
5	根 本 軍 記	S31.10. 1	S47. 9.30	30	鈴 木 広 直	H 7. 3.15	H20. 9.30
6	小 沼 玄 一	S33. 4. 1	S36. 9.30	31	堀 田 恵 一	H12. 4. 3	H18. 3.31
7	武 田 円 内	S33.11.26	S38. 9.30	32	渡 邊 博	H12.10. 1	H13.12.31
8	渡 邊 伝	S35.10. 1	S38. 8. 5	33	斎 藤 雅 子	H14. 3.15	H27. 6.30
9	遠 藤 隆 三	S36.10. 1	S44. 9.30	34	上 村 美 代 子	H17.10. 1	H25. 9.30
10	佐 原 武 夫	S38.10. 1	S46. 9.30	35	押 山 利 一	H18. 4. 1	H25. 5.31
11	佐 々 木 進	S38.10. 1	S47. 9.30	36	伊 藤 忠 和	H18.12.21	R 4.12.20
12	大 内 勤	S41.10. 1	S57. 9.30	37	渡 邊 広 和	H20. 4. 1	H22.12.31
13	小 沼 宗 美	S44.10. 1	S60. 9.30	38	齋 藤 雄 一 郎	H23. 1. 1	
14	渡 辺 金 一	S46.10. 1	S50. 9.30	39	佐 藤 吉 郎	H25. 6.11	R 4. 3.31
15	渡 辺 小 八	S47.10. 1	S51. 9.30	40	須 藤 綾 子	H25.10. 1	
16	武 田 市 太 郎	S47.10. 1	S51. 9.30	41	高 島 由 美 子	H27. 7. 1	R 6. 6.30
17	松 井 博	S50.12.22	H 3.12.21	42	三 村 浩 史	R 4.12.21	
18	角 田 善 正	S51.10. 1	S59. 9.30	43	柳 沼 順 子	R 6.10.20	
19	遠 藤 文 雄	S51.10. 1	S59. 9.30				
20	岡 田 光 雄	S57.10. 1	S61. 9.30				
21	渡 辺 富 夫	S59.10. 1	H 4. 9.30				
22	高 島 貞	S59.10. 1	H 4. 9.30				
23	大 内 ヒ サ 子	S60.10. 1	H 5. 9.30				
24	武 田 章	S61.10. 1	H 6. 9.30				
25	武 田 昭 三	H 3.12.22	H11.12.21				

◆歴代小・中学校校長

＜大山小＞			＜玉井小＞			＜大玉中＞		
初代	大 原 康 則	明治 6年	初代	三 村 義 門	明治9年	初代	桑 原 光 男	昭和50年
2代	斉 藤 安 衛	明治 9年	2代	鳥井戸今朝次郎	明治29年	2代	渡 辺 寿	昭和55年
3代	浦 井 忠 吉	明治10年	3代	山 田 力 蔵	明治31年	3代	中沢剛太郎	昭和58年
4代	古 河 末 東	明治12年	4代	佐 野 伯 正	明治37年	4代	押 山 峯 雄	昭和61年
5代	宮 内 文 炳	明治14年	5代	鈴 木 才 吉	明治40年	5代	安 部 利 介	平成 2年
6代	村 上 三 郎	明治16年	6代	山 口 友 八	明治43年	6代	堀 田 恵 一	平成 5年
7代	古 河 末 東	明治19年	7代	加 藤 末 松	明治45年	7代	浅 和 宏	平成 7年
8代	植 松 留 治	明治20年	8代	渡辺佐太郎	大正12年	8代	渡 邊 國 男	平成10年
9代	斉藤大作※1	明治21年	9代	高 橋 軍 記	昭和 6年	9代	小 松 隆	平成14年
10代	黒田鑄太郎	明治21年	10代	曾 我 伝 吉	昭和10年	10代	雉子波敏司	平成16年
11代	石 川 末 吉	明治37年	11代	星 政 喜	昭和16年	11代	福 本 隆	平成19年
12代	郡 正 次 郎	明治41年	12代	佐 藤 泰 輔	昭和18年	12代	渡 邊 健 順	平成24年
13代	安 斎 虎 人	大正 9年	13代	高 橋 勝 吉	昭和21年	13代	渡 辺 康 弘	平成27年
14代	土 屋 重 知	大正14年	14代	大 内 利 美	昭和25年	14代	鈴 木 豊	平成29年
15代	渡 邊 清 助	昭和 6年	15代	渡 辺 徳 蔵	昭和27年	15代	安 田 浩 明	令和 2年
16代	鎌 田 格 平	昭和11年	16代	安 部 憲 司	昭和29年	16代	久保寺 徹	令和 5年
17代	三本杉民治	昭和14年	17代	五十嵐信広	昭和31年	※1 櫛山初代		
18代	高 橋 勝 吉	昭和19年	18代	渡 邊 金 一	昭和37年			
19代	伊 藤 泰 助	昭和21年	19代	渡 辺 正 治	昭和42年			
20代	石 貝 久	昭和25年	20代	戸 田 正 助	昭和44年			
21代	菊 田 武 雄	昭和27年	21代	小 沢 安 治	昭和49年			
22代	渡 邊 金 一	昭和32年	22代	本 多 昌 雄	昭和52年			
23代	難 波 俊 夫	昭和37年	23代	押 山 峯 雄	昭和59年			
24代	設 楽 貞 夫	昭和38年	24代	菊 地 博	昭和61年			
25代	戸 田 正 助	昭和40年	25代	木 本 清	平成 1年			
26代	小 沢 安 治	昭和42年	26代	小 野 進	平成 5年			
27代	安 斎 平 重	昭和44年	27代	久間木俊二	平成 7年			
28代	平 栗 繁 夫	昭和47年	28代	沓 沢 宏	平成10年			
29代	大 内 昭 一	昭和52年	29代	服 部 健	平成12年			
30代	菅 野 次 男	昭和58年	30代	本 多 長	平成15年			

<大山小>			<玉井小>		
31代	松 坂 昭 造	昭和60年	31代	小 川 信 晴	平成18年
32代	安 齋 将 榮	平成 2年	32代	原瀬久美子	平成21年
33代	加 茂 隆 二	平成 4年	33代	松 本 公 秀	平成23年
34代	佐 藤 宇 一	平成 8年	34代	佐 藤 一 男	平成27年
35代	大河内邦夫	平成10年	35代	伊藤比呂美	平成29年
36代	大 内 宏 典	平成13年	36代	小 林 雄	平成31年
37代	菊 池 勇 人	平成16年	37代	佐 藤 則 之	令和 4年
38代	三 浦 光 伊	平成19年	38代	五十嵐洋之	令和 6年
39代	安 齋 宏 之	平成22年			
40代	猪 狩 仁	平成25年			
41代	渡辺光太郎	平成28年			
42代	舘 脇 一 弘	平成31年			
43代	齋 藤 和 久	令和 4年			
44代	澤 藤 晃 治	令和 6年			

大玉村 国・県・村指定文化財

令和7年4月1日現在

No.	区分	種 別	文 化 財	名 称	員 数	指 定 番 号	指 定 年 月 日	所 在 地
1	国	天 然 記 念 物	馬 場	ク ラ	-		昭和11年12月16日	玉井字石橋
2	県	史 跡	二 子 塚	古 墳	-	県史第44号	平成 1年 3月22日	大山字二子塚
3	"	史 跡	傾 城	古 墳	-	県史第46号	平成 9年 3月25日	大山字愛宕 二本松市宇峠
4	村	史 跡	温 石	古 墳	-	村第 2号	昭和46年 3月25日	大山字荒池
5	"	名 勝	玉 の	井	-	村第 3号	昭和49年 9月 4日	玉井字南町
6	"	無形民俗文化財	本 揃 の 田	植 踊	-	村第 4号	昭和50年 3月20日	玉井字本揃
7	"	有 形 文 化 財	鉄 造 観 音 菩 薩	立 像	一 軀	村第 5号	昭和50年 3月20日	玉井字西庵 あだたらふるさとホール
8	"	有 形 文 化 財	薬 師 如 来	三 尊 像	三 軀	村第 6号	昭和50年 3月20日	玉井字南町 相応寺
9	"	天 然 記 念 物	十 楽 院 の	カ ヤ	-	村第 7号	昭和52年 7月14日	玉井字馬喰内
10	"	無形民俗文化財	神 原 田 神 社	十 二 神 楽	-	村第 8号	昭和55年 5月16日	大山字六社山
11	"	有 形 文 化 財	日 枝 神 社	三 十 六 歌 仙 絵 馬	一 括	村第 9号	昭和59年12月 5日	大山字上ノ台
12	"	無形民俗文化財	玉 井 二 区 太 鼓 台 運 行		-	村第10号	平成 2年 4月12日	大玉二区
13	"	有 形 文 化 財	相 応 寺 薬 師 堂	十 二 神 将	一 括	村第12号	平成 7年12月 1日	玉井字南町 相応寺
14	"	天 然 記 念 物	相 応 寺 の	し だ れ 桜	-	村第13号	平成21年 7月 1日	玉井字南町 相応寺
15	"	有 形 文 化 財	神 原 田 神 社 の	絵 馬	一 括	村第14号	平成26年12月22日	大山字六社山
16	"	有 形 文 化 財	玉 井 神 社 の	三 十 六 歌 仙 絵 馬	一 括	村第15号	平成26年12月22日	玉井字午房内
17	"	有 形 文 化 財	天 王 下 八 坂 神 社 の	三 十 六 歌 仙 絵 馬	一 括	村第16号	平成26年12月22日	玉井字天王下
18	"	有 形 文 化 財	木 造 徳 溢 大 師	坐 像	一 軀	村第17号	平成29年 8月17日	玉井字南町 相応寺
19	"	史 跡	戦 死 三 十 一 人 墓		一 基	村第18号	平成29年12月14日	玉井字権現目
20	"	有 形 文 化 財	福 島 県 民 会 規 則		一 冊	村第19号	令和 5年 5月18日	玉井字西庵 あだたらふるさとホール
21	"	有 形 文 化 財	小 名 倉 山 の 「 石 造 大 日 如 來 坐 像 」 及 び 「 石 造 龍 樹 菩 薩 坐 像 」		二 軀	村第20号	令和 6年12月19日	玉井字小名倉山 日吉神社

令和7年度 園児・児童・生徒在籍状況について

R7.7.1現在

□ 玉井幼稚園

	園児数	男	女	学級数	さくら たんぽぽ すみれ	もも ゆり ばら		避難者数
年少	46	20	26	2	23	23		0
年中	54	22	32	2	27	27		0
年長	39	24	15	2	20	19		1
計	139	66	73	6	70	69		1

□ 大山幼稚園

	園児数	男	女	学級数	ちゅうりっぷ ゆり すみれ	たんぽぽ ひまわり さくら		避難者数
年少	26	16	10	2	13	13		2
年中	43	21	22	2	21	22		2
年長	30	16	14	2	15	15		1
計	99	53	46	6	49	50		5

□ 玉井小学校

	児童数	男	女	学級数	1組	2組	特別支援	避難者数
1	52	30	22	2	25	25	2	0
2	53	21	32	2	23	25	5	2
3	49	19	30	2	24	24	1	0
4	52	28	24	2	24	26	2	1
5	50	28	22	2	24	25	1	0
6	45	26	19	2	20	22	3	2
計	301	152	149	12	140	147	14	5

□ 大山小学校

	児童数	男	女	学級数	1組	2組	特別支援	避難者数
1	49	19	30	2	24	24	1	1
2	45	18	27	2	21	23		5
3	48	23	25	2	24	24	4	1
4	52	26	26	2	23	25	2	3
5	42	24	18	2	19	20		1
6	45	20	25	2	22	23	2	4
計	281	130	151	12	133	139	9	15

□ 大玉中学校

	生徒数	男	女	学級数	1組	2組	3組	特別支援	避難者数
1	99	51	48	3	31	32	32	4	3
2	69	32	37	2	32	33		4	2
3	95	55	40	3	30	31	30	4	3
計	263	138	125	8	93	96	62	12	8

幼稚園園歌 小・中学校校歌
旧大山・玉井中学校校歌

大山幼稚園園歌

作詞 大内 昭一
作曲 大内 正光
編曲 菊地 常雄
補作 園歌作成委員会

一 あだたらやまの そらたかく
あかるいこえが こだます
たのしくうたう ゆうぎしつ
あかるくたのしい ようちえん

二 きいろいぼうしに ひがそそぎ
げんきにあそぶ えんていに
おおきなゆめが ふくらんで
あかるくたのしい ようちえん

玉井幼稚園園歌（だけ山たかいな）

作詞 戸田 正助
作曲 大内 正光

一 お日さまにここに青い空
みんななかよくあそぼうよ
みんなげんきに歌おうよ
よわむしなきむし
ひとりもない

二 風がふいてもへいきだぞ
雪がふってもなかなかいぞ
ぴいふうふいてもまけないぞ
だけ山たかいな
背くらべしよう

大山小学校校歌

作詞 菊田 武雄
作曲 成田 コン

一 安達太良の すそひく里に
脈なせる みどりうるわし
輝ける 希望に充ちて
われらいざ 心明かるく
真理の道 究め進まん

二 阿武隈の 岸うつ里に
黄金なす 穂波うるわし
たくましき 力に充ちて
われらいざ 務めをはたし
くろ土の 幸を築かん

三 錦なす 真弓の里に
むつみあう 人ぞうるわし
限りなき ほこりに充ちて
われらいざ 心をあわせ
学びの道 いそしみゆかん

玉井小学校校歌

作詞 国語研究部
作曲 音楽研究部

一 安達太良の 山なみ遠く
つらなりて 雄々しき姿
仰ぎ見る 若きまなざし
われらいま 希望^{のぞみ}にもえて
明るけき 道をばゆかん

二 風薫る 平和の郷に
育みし われらすこやか
まことなる 理想^{ゆめ}をめざしつ
たぎりたち 進みてゆかん
いざ共に 力あわせて

三 夕映えは 細田の丘に
かがよいて 光うるはし
学び舎は 由緒^{いわれ}も深く
はらからの 栄光^{さかえ}をたとう
玉井の ああ我が母校

大玉中学校校歌

作詞 藪田 義雄
作曲 岡本 敏明

一 阿武隈の流れゆたかに

くにつち
国土を潤すところ

のぞみ
わが希望あり

稲の穂のみのりたわわに

あ
うち揚がるその喜び

とりいれ
うち揚がる収穫のその喜び

二 大玉の名こそゆかし

まなびや いしずえ
学校の石据すえて

わが誇あり

窓はみな開くかたえに

満ち満つるその輝き

満ち満つる未来へのその輝き

三 安達太良の山を仰げば

おのずから湧きくる力

わが希望あり

空の青招くかなたに

こだまするその喜び

こだまする若人のその喜び

旧大山中学校校歌

作詞 根本 一樹
作曲 中目 徹

一 松の香よさみどりよ

苗松山も程近く

ここ清澄の 神原田

ああ学び舎に 光あり

二 春秋時は移れども

希望新に行く道の

なほ はる
真く遥けし安達太良の峯

ああ誠実のこの誓い

三 六社の丘の 森深く

真理を究め 技練りて

われら日本の 明日を負う

ああ大山の中学校

卒業生総数 二千三百六十一名

旧玉井中学校校歌

作詞 東野辺 薫
作曲 大河内 健一

一 おおらかに豊かな大地 玉井の

我が学び舎を 仰ぐとき

真理を求め 健やかに

働く力湧き出する

ああ 理想を追わん もろともに

二 人の和の花開く村 玉井の

我が学び舎に 勤しめば

海の極みも 手を挙げて

呼び合う誠意 あふれゆく

ああ 光かがん 人の世に

三 安達太良と稲穂波打つ 玉井の

我が学び舎を 思うとき

中学の日の 胸の琴

高く遠くも 響き来る

ああ 永遠に讃えん 我が母校

卒業生総数 三千七百六十七名

大玉村民の歌

作詞：根本 幸男
作曲：板垣 忠直

一、 安達太良山に 朝日が映えて

光る大地に ^{いのち} 生命みなぎる

遠い^{ちとせ}千年の 馬場桜咲き

若い力が 雄々しく育つ

ああ大玉は 伸びゆくふる里

二、 百日川が ^{みずた} 水田うるおし

野に立つ人の 汗が輝く

森の松風 未来を語り

働く喜び ゆめは広がる

ああ大玉は 明るいふる里

三、 あだたらの里 ^{あかね} 茜に染まり

たわむ稲穂に 笑顔集まる

山の^{きじ}雉たち ^{のど} 閑かに遊び

^{あした} 明日の栄えと 望みを歌う

ああ大玉は 豊かなふる里

平成7年3月1日制定



おおたま学園



大玉中学校



玉井小学校

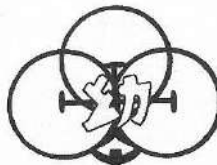


大山小学校

Since 2011



玉井幼稚園



大山幼稚園